前項ノ場合ニ於テ物品出納吏ハ其ノ物品ノ出納ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ指定ノ期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ第四號樣式ニ依リ調製シ證憑書類ヲ添ヘ二十日以内ニ廳廨長ニ提出スヘシ但シ計算書ニ添付ヲ要スル證憑書ハ特ニ之ヲ指定スルモノトス

第二十七條　廳廨長ハ前條ノ計算書ヲ受ケタルトキハ現在ノ物品及物品出納簿ト對査シ相違ナキトキハ其ノ旨ヲ附記シ十日以内ニ知事ニ進達スヘシ

第五章　雜則

第二十八條　（削除）

第二十九條　本縣ノ所有ニ屬シ若ハ本縣ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル證券ノ保管及出納ハ此ノ規則ヲ準用ス

第三十條　此ノ規則ハ明治三十四年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十一年（二月）訓第三十四號ハ廢止ス

○大正二年訓令甲第二十號附則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年十一月　岐阜縣訓令第六十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○第一號甲樣式（第十三條參照）

廳廨長○

物品出納吏又ハ分任物品出納吏○

受入請求年月日

出納簿登載年月日

主任某○

左ノ物品受入請求ス

一何程

代價何程

納付人氏名

但シ云々（受入ヲ要スル事由ヲ記載スヘシ）

備考　內務部所屬ノ出納ニシテ規則第十一條第二項ニ依ル分ハ本樣式中廳廨長ヲ何課長ト記載スヘシ

○第一號乙樣式（第十三條第二項參照）

受入伺○

廳廨長○

物品出納吏又ハ分任物品出納吏○

知事○

何部長○

何課長○

課僚○

購入、物品受入帳記入　何年何月何日

主任官氏名○

大正何年度歲出一金

經常（臨時）部款項目

內

目	數量	單價	代價	事由
圓				
圓				

譯

右見積代價ヲ以テ購入（修繕、生産）ノ義御決定相成現品納付濟ノ上ハ代金仕拂相成度候也

大正　年　月　日

郡
市　町　村

岐阜縣知事

殿　何　某　印

備考

一、内務部、警察部ヲ除ク他ノ廳廨ハ本樣式中知事、部長トアルヲ廳廨長トシ又課長ナキ廳廨ハ該事項ヲ除クモノトス

二、代金ノ仕拂ヲ爲ストキハ欄外上部ニ支出伺ノ決裁ヲ受ケ執行スルコトヲ得

三、本廳ニ限リ仕拂命令交付ノ際領收證書ヲ持參セサルモノハ本書ノ末尾ニ領收ノ旨ヲ記載シ署名押印セシメ領收書ト爲スコトヲ得

○第二號樣式（第十三條第三項參照）

廳廨長○　物品出納吏○　請求年月日

何課長（又ハ知事官房主事）○　又ハ分任物品出納吏○　仕拂年月日

左ノ物品仕拂請求ス　記帳年月日

品目	白美濃紙	罫半紙	洋罫紙	何々	何々	何々	需用者氏名	受領證印
數量								
途								
用數量								
途								
用數量								
途								
用數量								
途								
用數量								
途								
計								

○第三號樣式（料紙美濃紙）（第二十二條參照）

備品（消耗品又ハ何々）出納簿

廳廨　名

凡例

一、本簿ハ數冊ニ分チ調製スルモ妨ケナシ此ノ場合ニ於テハ表紙帳簿名ノ下ニ何冊ノ内一、二、三、ノ文字ヲ記入スヘシ又物品使用ノ目的若ハ品種等ヲ區分別冊ニ調製シタルトキハ仍其ノ區分セシ名稱ヲ表紙帳簿名ノ肩ニ朱書スヘシ

一、物品ノ費途ニ依リ出納簿ヲ分チ調製シ又ハ見出シ欄ヲ附シ之ヲ區分シタルトキハ毎品ニ一々費途ノ名稱ヲ記載セサルモ妨ケナシ

一、消耗品ノ外物品ノ受入仕拂及現在ニ對シ左ノ區分ニ依リ代價ヲ登記スヘシ

○受入品ノ内購入ハ其ノ原價生産及保管轉換ニシテ代價ノ判明ナルモノハ其ノ代價其ノ他ハ見積代價

○仕拂品ハ出納簿ニ登記ノ代價但シ代價ノ異ナリタルモノ混同シ毎品ノ代價判明セサルモノハ平均代價ヲ以テスルモ妨ナシ

○現在品ハ受入品ニ對スル代價ト仕拂品ニ對スル代價ノ差引額但シ實價ニ比シ差違ヲ生セシト認メタルトキハ物品出納吏ハ廳廨長ノ承認ヲ得テ相當代價ニ更正スルヲ要ス

一、此規則施行ノ際現在スル物品ノ代價ハ物品出納吏ニ於テ之ヲ見積リ廳廨長ノ承認ヲ得テ帳簿ニ登記スヘシ

一、保管品及證券ノ出納簿ハ適宜ノ式ニ依ルコトヲ得

一、消耗品出納簿ハ半紙ヲ使用スルモ妨ナシ

一、消耗品ノ拂出ハ一箇月間取纏メ記帳スルコトヲ得

一、郵便切手類ハ金額ニ見積リ出納スルモ妨ナシ

何年明治何月日	年月日	摘要	受入 員數	受入 代價	仕拂 員數	仕拂 代價	現在 員數	現在 代價

費

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日

何々（品名）何（單位ノ稱）

第四號樣式　料紙美濃紙（第二十六條參照）

自明治何年何月何日
至明治何年何月何日　物品出納計算書

何費	備品	區分	受入 單位ノ稱	受入 越買入	受入 生産	受入 保管轉換	受入 返納	受入 計	受入 代價	支拂 消耗爲メ却	支拂 生産ノ賣却	支拂 保管轉換棄却	支拂 亡失	支拂 計	支拂 代價	現在 員數	現在 代價

何々（品名）	何々（品名）	何費	何々	消耗品	何費	何々	保管品	何々	計

硝子板及硝子製ノ細管又ハ小器ノ類
硝子細管（試驗管U字管）漏斗管等ノ類）漏斗、ビーカ、シリンドル、レトルト、スポイト、ピペット、フラスコ、ゲラス板、デツキグラス、オブエクトグラス、乳鉢、乳棒、コップ、皿、肉池、水差、小壺（投藥瓶、標本瓶、メートル瓶、水素發生瓶等容量一升以內ノモノ）小鉢（蓋付共）
ランプ、同笠、アルコールランプ、電球、玻璃球等ノ類
護謨製ノ細管又ハ小器ノ類
護謨ノ細管（注射用又ハ試驗用ノ類）スポイト、護謨球（遊技用ノ球ノ類）字消護謨、護謨栓、護謨紐ノ類
陶器製ノ小器ノ類
土瓶、茶碗、德利、植木鉢、土鍋、炮烙、湯呑、急須、五德、火入、混爐、油差、片口、水入、水差、油皿、畫具皿、條痕板、坩堝、肉池、筆洗、乳鉢、乳棒、蒸發皿、摺鉢、山葵下シ、唾吐、小皿、湯暖房、小甕ノ類
小板小札小箱類
糊板、糊筆、人名札、標札、敷板、背板、土羽打板、栓、枠、井戸蓋、鍋蓋、（鉢等ノ容器ノ蓋共）粗製小箱（粗製品ニシテ諸種ノ容器其他物品ノ保護ニ用フル箱ノ類紙製共）ノ類
綱、紐、莚ノ類
繩紐、繩綱（運動用等）紐引、莚、蓆、畚、叺、俵、簀（日覆用又ハ水流用）網（捕蟲用等）ノ類
官報名簿又ハ一覽表ノ類
官報、名簿、職員錄、寫眞、樂譜、一覽表又ハ製本セサル一枚圖ノ類
文具及印顆類
紙挟、小刀、鋏、錐、コンパス、竹尺度、インキ壺、糊壺、文鎭、定木、繪具、活字、筆寫ニ代用ノ小印顆ノ類
雜品類
竹竿、旗、旗竿、物干竿、竹刀、見出串、籤、杭、竹網、棒（衞棒ベーンポール用共）掛矢、墓標、境界標、芥掻、種子袋、行厨袋、茶袋、土嚢、椅子覆、枕覆、桐油紙、團扇、扇、提灯、刷毛、芭蕉、石鹸入、小籠（紙屑籠、蠶籠、鹽籠、行李等）味噌漉、塵取、草笑、柄杓、杓子、土瓶手、櫂木、霧吹、如露、氷嚢、灰吹、火吹竹、茶焙、茶漉、灰押、灰篩、火箸、十能、砥石、針（縫合針、帽子針、注射針、畫針、帳綴針等）糸卷、釘、針金、連鎖、鑪、鋸、槌、樽、蠟燭立、鍼力箱、石油ポンプ、電池、亞鉛筒、ピンセット、カテーテル、試驗管挾、藥匙、ランプ拭、細管拭、黑板拭ノ類

●不用物品賣却處分方ノ件

（明治四十四年七月二十六日　警第五七一四號）

號雜收入ニ屬スル不用ノ物品又ハ毀損修補ヲ加ヘ難キ物品ヲ賣却處分方ノ件ニ付往々具申スル向モ有之候處右ハ警察署分署處務規程ニ依リ署長限リ專決施行シ得ヘキ事項ニ屬シ具申ノ必要ナク其ノ具申ヲ要スルハ棄却處分スル場合ニ限ル義ニ候條御了知相成度爲念此旨及通牒候也

知事官房　內務部
警察部　（郡役所）
警察署　測候所
縣立學校　農事試驗場
（物產館）　縣立病院
（驅蟲院）　（傳病豫防事務所）

●岐阜縣文具規則

（明治三十八年四月十九日　岐阜縣訓令第三十號）

第一條　本條ノ經濟ヲ以テ支拂スル費用ニ在動スル者又ハ本縣ノ經濟ヨリ俸給給料ヲ受クル者ノ使用スル文具ハ此ノ規則

ニ依ル

第二條　此ノ規則ニ於テ文具ト稱スルハ左ノ物品ヲ謂フ

毛筆　鉛筆　ペン先　ペン軸　墨　朱墨　白墨　インキ　認印用肉及肉池　墨池　硯　硯箱　インキ壺　文鎮　水入　糊壺

算盤　筆洗　定木　尺度　錐　鋏　小刀　火熨斗　燒鏝　紙挾　コンパス　烏口　卷紙　吸取紙　綴金　留針　毒綿

字消護謨　机拂用ブラッシュ

第三條　文具ハ總テ使用者ノ自辨トス左ニ掲クル文具ハ共用トシテ備置隨時使用セシムルコトヲ得

一　製圖又ハ簿記ニ用ユル文具

二　復寫版用又ハ石版原紙用ノ文具

三　塗板又ハ掲示板用ノ筆墨

四　大文字用ノ筆墨硯

五　速記用鉛筆

六　試驗場又ハ會議場ニ設備ヲ要スル文具

七　應接所又ハ控所ニ設備スル文具

八　教授場又ハ職員交代シ勤務ヲ爲スヘキ場所ニ設備ヲ要スル文具

第四條　職掌上高價又ハ多數ノ文具ヲ要スル場合ハ知事ノ認可ヲ經テ特ニ之ヲ給與若ハ使用セシムルコトヲ得

附則

第五條　此ノ規則ニ抵觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

第六條　此ノ規則施行ノ際現ニ貸與シアル文具ニ限リ其儘之ヲ使用セシムルコトヲ得

●原價壹圓以內ノ物品消耗品扱トナスノ件

（大正十三年八月十三日十三會第六四一號通牒）

縣有物品ニシテ原價壹圓以內ノ物品ヲ消耗品扱ト爲シ得ヘキハ大正元年八月十五日第一八四號通牒文記載ノ指定品ニ限ラレタルモノニ有之候處時世ノ進運ニ鑑ミ原價壹圓以內ノ物品ハ參考品ヲ除キ總テ消耗品扱ト爲スモ差支ナキ義決定相成度候

右趣旨ハ事務ノ簡捷ヲ計リ以テ全般ノ整理ヲ期セシメンカ爲ニ付御留意ノ上現品ハ勿論備品出納簿等充分整理相成度依命此段及通牒候

追テ書籍其他ニ付縣廳長ニ於テ將來參考上備品トシテ保存ノ必要ヲ認メラルルモノハ此限リニ在ラスト御了知相成度候

●縣出納吏管掌ニ屬スル物品亡失毀損ノ場合ニ於ケル責任免除ノ件

（明治三十七年一月十六日參事會決議）

縣出納吏避クヘカラサル事故ニ原因シテ其ノ管掌ニ屬スル物品ヲ亡失毀損シタルトキ其ノ價格拾圓以內ノモノハ知事ニ於テ直ニ賠償ノ責任ヲ免除スルモノトス

●出納吏任命資格ニ關スル件

（明治三十七年三月二十三日內五第一九九四號內務部長ヨリ各縣廳宛）

今般本縣會計細則及同物品會計規則中改正相成候處其會計細則第三十九條及物品會計規則第七條第八條中ノ改正ハ出納吏及物品出納吏ハ府縣制第七十六條ニ依リ官吏又ハ縣吏員ノ資格ヲ有スル者ニアラサレハ就職難相成主意ニ出テタル儀ニ付本縣會計細則第四十條ノ現金前渡ヲ受クル出納吏及本縣物品會計規則第八條ノ分任物品出納吏モ同樣ノ資格アルモノノ外指定難相成義ト御承知可有之此段及通牒候也

第五章　保管金、保管物品

●保管金取扱規程

（大正十一年二月一日
大藏省令第五號）

沿革　大正一三年七月大藏省令第一九號、一五年三月第八號改正

第一章　總則

第一條　政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

第四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官　關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第四條ノ二　出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條又第七十二條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章　保管金ノ揭出

第五條　保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添ヘ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ヲ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條　取扱官廳前條ノ規定ニ依リ保管金ノ提出ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ保管金受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第三章　保管金ノ拂渡

第七條　保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書又ハ受領證書ニ領收ノ旨ヲ記載セシメ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外預金部預金ニ預入ヲ爲シタル取扱官廳ハ現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第八條　保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ利スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノナルトキハ預金部預金取扱規程第十二條ノ手續ヲ爲シ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ

第四章　保管金利子ノ拂渡

第九條　保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ毎年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金全額ノ拂渡ヲ受クル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受クル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

前項ノ利子ハ保管金提出ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス保管金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

第十條　前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條　取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依ル預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章　保管金ノ保管替

第十二條　甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條　甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條　乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條　前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲スサムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第六章　政府ノ所得ニ歸シタル保管金

第十六條　保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條　主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳前項ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ依リ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　第十六條ニ規定スルモノヲ除ケノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章　雜則

第十九條　保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲スヘシ

第二十條　支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ

第二十四條　前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失效年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス

前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式　保管金受領證書（用紙一寸半紙判半截）

保管金受領證書

第　號

金

保管ノ事由

上記金額領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名印

何某宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏名印

某廳取扱主任官宛

備考

一　本書ハ之ヲ縱書トスルコトヲ得

二　受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第二號書式　保管金支拂通知書（用紙寸法半紙判半截）

保管金支拂通知書

號番附日書證領受金管保	
期滿失效年月日	
手切手振出日附	
小切手ヲ宛テタル店名	

金　　

前記ノ金額日本銀行（何店）ニ於テ受領セラルヘシ

年月日

某縣取扱主任官官氏名㊞

何某宛

領收證

前記ノ金額領收候也

年月日

住所

氏名　㊞

㊞印紙
收入

備考

一　用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ

二　官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ

三　領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

裏面書式

（注意事項）

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記入スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ

四　代理人カ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ表面領收證ノ部ニ代理人タルノ肩書ヲ附スヘシ

五　受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス

七　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支拂ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀

㊞收入印紙

表面金額ノ受取方ヲ　　ニ委任致候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

第三號書式 保管金利子請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金利子請求書

年 月 日第 號 保管金 ニ對スル利子支拂相成度及請求候也

年 月 日

住所

氏名 ㊞

某廳取扱主任官宛

金

保管金 ニ對スル 年 月ヨリ 年 月 迄年分ノ割

右支拂フヘキコトヲ證明ス

年 月 日

日本銀行（何店）宛

某廳取扱主任官官氏名 ㊞

前記金額領收候也

年 月 日

住所

氏名 ㊞

日本銀行（何店）宛

第四號書式 保管金保管替請求書（用紙寸法半紙判半截）

保管金保管替請求書

金

保管金受領證書日附番號

保管スヘキ法令ノ條項

保管ノ事由

新取扱官廳名

上記ノ通保管替相成度候也

年 月 日

住所

氏名 ㊞

某廳取扱主任官宛

本書保管替ノ申出ヲ承認候間貴廳ノ保管金トシテ取扱相成度候也

但シ別紙保管金利子參考表ヲ添附ス（利付ノ分ニ限リ此ノ但書ヲ記入スルコト）

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 ㊞

某 廳 宛

備考 本書ハ之ヲ謄書トスルコトヲ得

第五號書式　保管金利子參考表（用紙寸法半紙列半載）

保管金利子參考表

摘要	受	拂	殘

備考　摘要ノ欄ニハ前年度ヨリ繰越及月別ヲ記入スヘシ

某廳取扱主任官官氏名㊞

第六號書式　保管金政府所得調書（用紙寸法美濃列半載）

保管金政府所得調書

第　號　　年度分

受入年月日	保管金證書番號受領	保管ノ事由	期滿失效年月日	金額

某廳取扱主任官官氏名㊞

●保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ニ依ル主務官廳指定ノ件

（大正十二年十月十九日十二會第一二四七號內務部長通牒）

今般大藏大臣ヨリ當廳ヲ保管取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ主務官廳ニ提定セラレ候條此段及通牒候

（參　照）

保管金取扱規程（大正十一年二月大藏省令第五號）

第十六條　保管金規則遺失物法其他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

政府保管有價證券取扱規程（大正十一年二月大藏省令第八號）

第二十條　政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ

●預金部預金取扱規程

（大正十一年二月一日大藏省令第六號）

改正　大正一四年四月大藏省令第五號・一五年三月第九號改正

第一章　總則

第一條　預金部預金及預金賠入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ

第二條　預ケ人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ屆出ツヘシ

一　官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官

二　法人ニ係ルモノハ其ノ理事者

預金部預金及賠入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ

第三條　前條ノ擔當者ハ順較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二章　預金ノ種類

第三條ノ二　預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第百二十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス

第三條ノ三　普通預金ハ預ケ人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス

定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間內之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間內ト雖預ケ人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第三章　預金ノ拂込

第四條　預ケ人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ

日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條　（削除）

第七條　預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還金預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條ノ二　預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章　預金ノ拂戻

第九條　預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十條　（削除）

第十一條　預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添ヘ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條　預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章　預金ノ利子

第十二條ノ二　普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ

但シ一圓未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

一　普通預金　年二分五厘

二　定期預金　年五分

第三條ノ三第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利子ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利子ト同額以下ノ利子ヲ付スルコトヲ得

第十三條　普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス

係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ付スヘシ

第十三條ノ二　預ケ人定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス

第十四條　預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二　預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利子組入通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ定期預金利子ノ普通預金組入額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十五條　預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條　大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條　預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第六章　預金購入有價證券

第十八條　預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十九條　大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ

第二十條　（削除）

第二十一條　大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條　預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十三條　預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條　預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章　證明

第二十五條　預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預金部預金ノ受入及拂渡ノ請求書竝支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日内ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨリ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　雜則

第二十六條　日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ

第二十七條　預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込濟通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條　第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表

ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第二十九條　預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條　預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

附　則

第三十一條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　預金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第三十三條　本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依ル預金部預金ノ預ケ人ハ保管物取扱規程ニ依ル取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條　本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

附　則（大正十五年大藏省令第九號附則）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第百二十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本定施行前預入ニ係ルモノニ付テハ其ノ預ケ人ハ本令施行後一月內ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス

預ケ人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ大正九年九月大藏省告示第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式　預金部預金拂込書（用紙寸法半紙判半截）

書込拂金預金部預金

第　號

金

期限　年　月　日

預入根據法令

上記金額預金部定期預金トシテ拂込候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ住所）（何々事理者氏名）㊞

宛（店）（何）行銀本日

第一號ノ二書式　預金部預金拂込書（用紙寸法半紙判半截）

書込拂金預金部預金

第　號

金

預入根據法令

上記金額拂込候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ住所）（何々事理者氏名）㊞

宛（店）（何）行銀本日

第二號書式　保管金振込書（用紙寸法半紙判半截）

保管金振込書

金

右某縣ノ保管金トシテ振込候也

年　月　日

日本銀行（何店）宛

住所

氏名㊞

備考　本書ハ之ヲ横書スルコトヲ得

第三號書式　有價證券利子預金組入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券利子預金組入請求書

金　　內譯下記ノ通

上記利子金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ元加相成度候也

年　月　日　　貯金局長氏名㊞

日本銀行宛

證券種別	券面額	利子額	內譯							
			所得稅賦課				同免除			
			券面額	利子額	所得額		券面額	利子額		

第三號書式附屬　所得稅免除證券利子證明書（用紙寸法半紙判半截）

所得稅免除證券利子證明書

金　　利子金額

內　譯

證券種別	記番號及回數別	券面額	利子額

上記證券ハ所得稅ヲ免除スヘキ所有者ノ分ナルコトヲ證明ス

年　月　日

貯金局長氏名㊞

第四號書式　有價證券償還金預金組入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券償還金預金組入請求書

金　　證券何枚

內譯下記ノ通

上記償還金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ組入相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名㊞

日本銀行宛

內　譯　（證券記番號ハ別紙記番號內譯表ノ通）

證券種別	券面、記號及回數別	枚數	券面額	割增金	月割利子	受預高

第四號ノ二書式　預金部定期預金更新通知書（用紙寸法半紙判半截）

預金部定期預金更新通知書

金

預入年月日　　年　月　日

期　　限　　年　月　日

預入根據法令

上記預金期限到來後引續キ　　年　月　日迄

預入繼續可致候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事者住所氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

第五號書式　預金部預金拂戻請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金拂戻請求書

金　　定期預金

預入年月日　　年　月　日

期　　限　　年　月　日

預入根據法令

上記金額拂戻相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事者住所氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

上記金額領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事者住所氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

第六號書式　預金部預金預入替請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金預入替請求書

金

預入替受入官廳

同　受入店

上記ノ通預入替相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名　印

日本銀行（何店）宛

第六號ノ二書式　預金部預金利子支拂請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子支拂請求書

金　　定期預金利子

預入年月日　　年　月　日

期　限　　年　月　日

預入根據法令

上記金額支拂相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事者住所氏名）印

日本銀行（何店）宛

上記金額領收候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事者住所氏名）印

日本銀行（何店）宛

第七號書式　預金部預金利子元加請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子元加請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子元加ニ付預金ニ付ノモノニ要スル手續相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名　印

大藏省理財局長宛

上記金額元加ニ要ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名　印

日本銀行宛

第八號書式　預金部預金利子支拂請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子支拂請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子支拂ヲ要スルモノニ付支拂ノ手續相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名　㊞

大藏會理財局長宛

上記金額支拂ヲ要ス

年　月　日

大藏會理財局長氏名　㊞

日本銀行宛

上記金額領收候也

年　月　日

貯金局長氏名　㊞

日本銀行宛

第九號書式　預金部預金利子支拂請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金部預金利子支拂請求書

金

利子（金託供ハ又）金管保

上記金額支拂相成度候也

年　月　日

某聽取扱主任官官氏名（又ハ某託供局長氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

上記金額領收候也

年　月　日

住所

氏　名　㊞

日本銀行（何店）宛

第十號書式　有價證券購入請求書（用紙寸法半紙判半截）

有價證券購入請求書

下記證券　月　日ノ時價ヲ以テ購入保管相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名　㊞

大藏省理財局長宛

證券種別	券面額	券面別	枚數	見込相場額	備考

第十一號書式　有價證券購入濟通知書（用紙寸法縦八寸五分横一尺五寸）

表面

第　號

有價證券購入濟通知書

（郵便貯金）

證券種別	券面別	購入代金

上記證券購入濟ニ付通知ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

貯金局長宛

裏面

表書ノ通大藏省ヨリ通知ヲ受ケ候ニ付預金部預金帳及預金購入有價證券保管帳差出候間購入代價及有價證券ノ記入相成度候也

年　月　日

日本銀行宛

貯金局長氏名　㊞

第十二號書式　預金購入有價證券拂戻請求書（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券拂戻請求書

何公債證書（又ハ何）額面何圓也　何枚

內譯下記ノ通

上記證券拂戻相成度候也

年　月　日

貯金局長氏名㊞

日本銀行宛

內譯（證券記番號ハ別紙記番號內譯表ノ通）

券面、記番號及回數別	枚數	券面、記號及回數別	枚數	券面、記番號及回數別	枚數

第　號

有價證券購入濟通知書原符

（郵便貯金）

證券種別	券面別	購入代金

貯金局長氏名

購入濟通知書年月日

第　號

有價證券購入濟通知書

（郵便貯金）

證券種別	券面別	購入代金

上記證券購入濟ニ付通知ス

年　月　日

大藏省理財局長氏名㊞

日本銀行宛

第十三號書式　預金購入有價證券受領證書（用紙寸法半紙判半截）

預金購入有價證券受領證書

何　枚

通ノ記下譯內

也圖何面額（何ハ又ハ書證債公債）

上記證券領收候也

年　月　日

貯金局長氏名　㊞

宛行銀本日

番號別記及面券	數回	枚數	番號別記及面券	數回	枚數	番號別記及面券	數回	枚數	番號別記及面券	數回	枚數

第十四號書式　預金取扱店變更申込書（用紙寸法半紙判半截）

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行（何店）ノ取扱ニ變更相成度候也

年　月　日

某廳取扱主任官官氏名（又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名）㊞

日本銀行（何店）宛

記

金　　預金現在高

●歲入歲出外規金取扱規程

（明治三十八年六月二十三日岐阜縣訓令第六十號）

沿革　明治四〇年二月訓令第七號、大正一一年三月訓令甲第一〇號、同年五月第二三號、一五年七月第七一號改正

知事官房各部
郡役所警察署

第一條　歲入歲出ノ現金トハ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ヲ云フ其ノ種目左ノ如シ

項目	
國幣社幣帛及神饌料	

下賜金	神饌料	官幣料
恤救寄附金		水災下賜金
		（何々）下賜金
保證金	（何々）寄附金	水災寄附金
		違警罪保證金
		（何々）保證金
拾得金		
		人民拾得金
		警察官吏拾得金
		官廳拾得金

犯罪者置去金		公署學校拾得金
物品公賣代金		
		拾得品公賣代金
		犯罪者置去品公賣代金
		發掘物公賣代金
囚人及刑事被告人所持金		
		領置工錢
		携有金

第二條　縣廳、支廳及警察署ニ歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ヲ置ク

第三條　出納官吏ハ支廳ハ支廳長、警察署ハ署長ヲ以テ之ニ充テ縣廳ニ在テハ別ニ之ヲ命ス

第四條　出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ日本銀行ニ預ケ入ルヘシ但シ數日内ニ拂渡シヲ爲ス必要アルモノ又ハ第九條ニ依ルモノ其ノ他特殊ノ事由アルモノニ付テハ現金ノ保管ヲ爲スコトヲ得

第五條　前條ニ依リ現金ヲ日本銀行ニ拂込ム場合ニ在リテハ出納官吏事務規程第十八條又ハ第十九條ノ規程ニ準據スヘシ

第六條及第七條　（削除）

第八條　出納官吏ハ大正十一年三月大藏省令第二十號別表第十四號書式ノ現金出納簿ヲ設クルノ外尙ホ別紙書式ノ內譯簿ヲ設ケ各科目毎ノ現金受拂高及日本銀行保管高等ヲ登記スヘシ

第九條　犯罪者置去金等ニシテ犯罪ノ證據トナルヘキモノニシテ特ニ必要アルトキハ明治三十五年(六月)岐阜縣訓令第三十九號警察署警察分署保管物品取扱規程ニ依リ之ヲ取扱フコトヲ得

附　則

第十條　從前ノ規定ニ依ル內譯簿ハ本令施行前金庫ニ拂込ヲ爲シタル保管金ニシテ權利者ニ拂渡若ハ歲入ニ納付又ハ他ノ出納官吏ニ交付等保管金ノ支拂ヲ了スルマテ之カ整理ヲ爲スモノトス

（別紙樣式）

歲入歲出外現金內譯簿

歲入	歲出	現金	內譯

金得拾民人

年月日		摘要		受	拂	殘
月	日		顚末	圓	圓	圓
何	何	何某拾得金受入	何年何月何日歲入ニ納付	10000		10000
	何	何某同	何年何月何日權利者何某ヘ交付	5000		
	何	同上分何某渡			5000	10000
	何	日本銀行ヘ拂込			10000	0
	何	何某拾得金受入	何年何月何日權利者何某ヘ交付	3000		3000
	何	日本銀行ヘ拂込			3000	0

●歲入歲出外現金取扱方ノ件

（大正十三年七月十一日十三會第五五五號通牒）

歲入歲出外現金出納ニ關シ屢々及通牒置候ヘ共會計檢査ヲ爲セシ吏員ノ復命ニ依レハ尙適當ナラサル點モ有之候就テハ左記各事項御注意ノ上處理相成度此段及通牒候也

記

一、出納簿記帳方ニ付テハ大正十一年三月大藏省令第二十號第十四號書式ニ據ルコト

一、現金ノ拂込ノ手續ハ大正十一年一月大藏省令第二號出納官吏事務規程第二章第二節收入金ノ拂込規定ニヨリ拂込ヲナスコト

一、預金制度以降ニ於テ受入ニ係ル保管金ニ對シテ小切手ヲ發行シタル時ハ全部記帳ヲ要ス

一、歲入歲出外現金出納金出納官吏ハ預金部預金取扱規程第二十五條ニ依リ日本銀行ヨリ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタル時ハ證憑書類ト對照シ現金支拂濟ナル小切手ハ明細簿（內譯簿）ニ「現金支拂濟」ノ印ヲ押捺シ證明ノ上返付スヘシ

出納官吏ハ每月一回日本銀行保管金現在高ト出納簿現在高ト對照シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

一、政府ノ所得ニ歸シタル保管金ハ大正十一年二月大藏省令第五號保管金取扱規程第十六條ニ依リ一年度分ヲ及纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ當廳ニ送付スルコト

一、保管金取扱規程第十八條ニ依ル政府ノ所得ニ歸シタル保管金（例ヘハ沒收金ノ如シ）ハ其ノ都度之ヲ歲入ニ納付スヘキ手經ヲ爲スモノトス

一、小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組入スヘキ手續ヲ爲スモノトス

一、金庫制度ニ於ケル保管金ハ警察官署ニ於テ遺失者ノ權利喪失後六ケ月以內ニ手續ヲ爲ササル時ハ金庫ハ寄托金ヲ保有スルノ義務ヲ免レ保管金取扱規程第十四條（舊規則）ニ依リ之ヲ歲入ヘ編入スルヲ以テ此際金庫制度ニ受入ニ係ル保管金

現在高アル時ハ日本銀行ト打合ノ上整理ヲ用ス

一、歳入歳出外現金出納官吏交替ヲ爲シタル場合ハ出納官吏事務規程第六章各條ニ依リ關係書類ヲ作成スルモノトス

●歳入歳出外現金收入決議書ノ件

（明治三十一年三月指示第六號）

歳入歳出外現金收入決議書ハ明治三十一年度ヨリ別紙ノ書ニ據リ調製スヘシ

拾得金收入決議書

署長決裁印	取扱主任印	年月日	金額	事由	納人氏名
		明治廿一年四月一日	圓 一〇〇〇	何月何日何處ニテ拾得何月何日ヨリ何日迄公告	何某
		四月二日	五〇〇〇	何月何日何處ニテ拾得何派出所又ハ何駐在所ヘ何月何日屆出ノ分	何某
		四月八日	〇一〇〇	何某何月何日何處劇場何座ニテ拾得ノ分	何某

拾得品公賣代金收入決議書

署長決裁印	取扱主任印	年月日	金額	事由	納人氏名
		明治廿一年四月二日	圓 二〇〇〇	巡査何某何月何日何處ニテ拾得何品何個又ハ何品外何點ハ保管シ難キ物品ニ付公賣セシ代金	何某

四人及刑事被告人携有金收入決議書

署長決裁印	取扱主任印	年月日	金額	事由	權利者氏名
		明治三十一年四月一日	圓 五〇〇〇	何署ヨリ送付ノ分	何某
		四月二日	〇〇二〇		何某

備考　一用紙ハ八行乃至十行罫紙ヲ用ヒ假綴トシ細目毎ニ口座ヲ設クヘシ
一月合計及累計ヲ朱記スヘシ

●遲警罪保證金取扱方ノ件

（明治三十九年九月一日第一部通牒）

遲警罪保證金ノ取扱方ニ關シ往々問合之向モ有之候處左記ノ通御取扱相成度候

一　保證金トシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ直ニ歳入歳出外現金トシテ取扱ヒ其現金ハ保管物取扱規定第六條ノ送付書ヲ添ヘ金庫ヘ送付シ仕拂ノ手續ヲ爲スモノトス

但現金ヲ金庫ニ送付前權利者ニ拂戻スヘキ事由ノ生シタルトキニ限リ直チニ其拂戻ヲ爲スモ妨ケナシ

一　前項ニ依ル送付書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

保管スヘキ法律規則ノ條項

●警察署保管物品取扱規程

（明治三十五年六月四日岐阜縣訓令第三十九號）

沿革　明治三九年八月訓令第四八號改正

警察署保管物品取扱規程左ノ通相定ム

警察署保管物品取扱規程

第一條　此ノ規程ニ於テ保管物品ト稱スルハ政府ノ保管ニ屬シ警察署（及警察分署）ニ於テ取扱フヘキ物品ヲ謂フ其ノ種目概ネ左ノ如シ

一拾得品
一發掘品
一犯罪者置去品
一犯罪證據品
一留置人携帶品
一徵收物（質屋取締法及古物商取締法ニ依ル徵收物）
一假領置品（行政執行法ニ依ル領置品）

第二條　警察署ニ保管物品取扱主任ヲ置キ其ノ署長分署長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　保管物品ハ保管物品取扱主任之ヲ保管出納スヘシ

第四條　保管物品取扱主任故意怠慢ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第五條　保管物品取扱主任ハ別紙樣式ノ保管物品基帳ヲ設備シ種目ヲ區分シテ番號品名員數價格關係者ノ住所氏名出納ノ年月日其ノ他必要ト認ムル事項ヲ登記スヘシ但シ別段ノ規定ニ依リ本縣ノ帳簿ニ記載スヘキ事項判明セル帳簿ヲ設ケ若ハ書類アルモノハ此限ニ在ラス

第六條　保管物品ニハ種目番號其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記載シタル笺札ヲ付シ其區分ヲ明ニスヘシ

第七條　保管物品ハ毎種區畫シテ一定ノ場所ニ格護スヘシ但シ金、銀、寶玉其ノ他貴重ノ物品、有價證券、證書、實印ノ類ハ鎖鑰ヲ施シタル堅牢ナル函ニ藏置スヘシ

第八條　保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ品名員數價格及亡失毀損セシ事實ヲ詳具シ知事ニ申告スヘシ

第九條　保管物品取扱主任交替シタルトキハ帳簿ト物品トヲ對査シ受拂ヲ爲スヘシ

用紙美濃紙

保管物品帳

何々警察署

拾得品（發掘品）（何々）

番號	品名	員數	價格	受入年月日	拂出年月日	摘要	關係者住所氏名

一受入若ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日ノ下ニ保管物品取扱主任認印ヲ爲スヘシ

一拾得品等官有ニ歸シタルカタメ拂出ヲナストキ其ノ他受入ノトキノ關係人ト異ナリタルモノニ拂出ストキハ摘要欄ニ其ノ氏名事由ヲ記載スヘシ

●遺失物法其ノ他ノ法令ニ依リ國ノ所有ニ歸シタル物品處分方

（明治三十九年八月一日　岐阜縣訓令第四十八號）

第一部
第四部
警察署

改正　大正一三年一月訓令甲第六號改正

遺失物法其他ノ法令ニ依リ國ノ所有ニ歸シタル物品ノ處分方左ノ通心得フヘシ

第一條　遺失物法其ノ他ノ法令ニ依リ國ノ所有ニ歸シタル物品ハ其ノ多少ニ依リ半箇年乃至一箇年分ヲ取纏メ之カ豫定價格ヲ具シ指揮ヲ請フヘシ

前項物品豫定價格百圓未滿ナルトキ又ハ保管上費用若ハ手數ヲ要シ其ノ他保管ニ困難ナル物品ハ警察署長ハ直ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

禁制品其ノ他賣却スヘカラサル物品又ハ賣却スルノ價値ナキ物品ハ警察署長ニ於テ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第二條　物品ヲ賣却スル場合ハ二名以上ノ者ヨリ買受代金ノ見積書ヲ徵シ其ノ最高價格ノ者ニ賣却スヘシ但シ競爭入札ニ付シ賣却スル場合ハ會計規則ニ依ルヘシ

第三條　物品ヲ賣却シタルトキハ其ノ品名、員數、代價及買受人ノ住所氏名ヲ記載シタル調書ヲ製シ大正十一年三月會計檢査院達第一號計算證明規程第十一條乃至第十四條及第十六條ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨遲滯ナク報告スヘシ

第四條　賣却シタル物品ハ其代金納付濟ノ證書ヲ呈示セシメタル上ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス但シ保管上費用若ハ手數ヲ要シ又ハ保管ニ困難ナル物品ニシテ代金滯納ノ虞ナシト認ムルモノハ直ニ現金ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

第五條　賣却シタル物品代金ノ納入告知書ヲ縣廳ヨリ送付シタルトキハ之ヲ納入ニ交付シ納金ノ指定ノ金庫ニ拂込マシムヘシ

附則

第六條　明治三十五年六月岐阜縣訓令第三十九號附則第十條ハ削除シ明治三十八年六月岐阜縣訓令第五十九號ハ廢止ス

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

●在監人所持金ノ義ニ付內務省總務局長ヨリ通牒ノ件

（明治二十三年十一月　警甲第一六號）

在監人所持金ノ儀ハ從來保管金トシテ大藏省預金局ニ寄託スルコトニ相成居候處右ハ預リ金規則第一條第二項ニ準シ預リ金トシテ預入拂戻ヲ要スルトキハ卽時拂ノ手續キニ據リ取扱フヘキコトニ改メラレ候尤モ他ノ官廳ヘ送致スル場合ニ於テハ保管金取扱規程第七條ニ依リ更ニ保管金ニ預替タル上本年六月十二日警甲第二三號ヲ以テ通牒及ヒ置キ候手續第三項ノ如ク取扱ヒ又其送致ヲ受クタル官廳ニ於テ再ヒ預金ニ預替ノ爲メ拂戻ヲ要スルトキハ拂戻金證明書ヘ其事由ヲ記シ主任官吏ニ於テ拂戻ヲ受クヘキ筈ニ有之候此段及通牒候也

追テ預金トシテ預入ルヽモ利子ヲ付セサル向ハ預入ノ際各廳ヨリ預金局ヘ申出可相成又金庫支拂時間後若クハ休暇日等ニ際シ臨時支出ニ差支止ヲ得サル場合ニ於テハ若干ノ現金ヲ引出シ置キ出納官吏ニ於テ隨意保管ヲ爲ス儀ハ不苦候條此段申添候

●在監人携有金品ニ關スル件

（明治三十五年三月司法省令檢甲第九八號　內務、司法兩總務長官ヨリ本縣知事ヘ）

警察署內ノ留置場ニ拘禁又ハ留署セラルヽ者ノ携有スル金錢及ヒ物品ノ儀本年法律第十一號施行ノ日ヨリ總テ內務省所管トシテ取扱フヘキコトニ決定相成候條此段依命及通牒候也

●警察署留置場ニ於ケル在監人所持品取扱方ニ關スル件

（明治三十四年十一月兵甲第二〇六號司法省監獄局長及內務省警保局長ヨリ本縣知事ヘ通牒）

警察署留置場ニ於ケル在監人所持品取扱方ニ關シ別紙甲號ノ通兵庫縣知事伺ニ對シ乙號ノ通リ內務司法兩大臣ヨリ指令相成候條依命此段及通牒候也

（甲號）

明治三十三年十月五日甲第三四八一號（兵庫縣知事ヨリ內務司法兩大臣ヘ伺）

保管物品取扱方之儀ニ付伺

一今般司法省訓令第三號ヲ以テ監獄署會計處務規定制定相成同署領置品ハ物品會計官吏ノ所管ヲ離レ領置品取扱主任ノ保管ニ附セラレ候ニ付テハ從來各警察署ニ於テ取扱來候在監人所持品ノ義モ同樣各警察署ニ領置品取扱主任ヲ置キ之ニ保管セシメ可然哉

（二中略）

右差懸リ候儀ニ付至急何分御指揮相成度此段相伺候也

（乙號）

明治三十三年十一月兵甲第二〇六號（內務司法兩省指令）

本年十月八日付伺保管物品取扱方ノ件警察署ニ於ケル在監人所持品取扱ハ明治三十三年內務省訓令第三十號ヲ適用シ在監人所持品出納簿ヲ級ケ整理スヘシ

明治三十四年十二月警發第一六二號內務省總務局長會計課長及警保局長ヨリ本縣知事ヘ通牒

客年十一月十三日付兵甲第二〇六號ヲ以テ警察署留置場ニ於ケル在監人所持品取扱ニ關シ及通牒置候處右ハ監獄費ヲ以テ支辨スヘキ囚人及刑事被告人ニ關スル義ニ有之隨テ司法省所管トシテ整理スヘク內務省物品取扱規程ニヨリ處理スヘキ留置人携帶品ハ監獄費支辨ニ屬セサル被押送者留置人等ノ物品ニ有之候間御了知相成度此段爲念及通牒候也

追テ所管ノ區分ニ付テハ所持品同樣所持金モ御取扱相成度申添候也

●在監人所持品取扱方ニ關スル件

（明治三十四年八月十七日警發第九七號　內務省警保局長ヨリ岐阜縣知事宛）

警察署留置場ニ於ケル在監人所持品取扱方ニ關シ別紙甲號大分縣知事照會ニ對シ乙號之通回答致候條爲念此段及通牒候也

（甲號）

大分縣知事ヨリ內務省總務局會計課長ヘ照會（明治三十四年五月十八日國第二一二三號）

警察署ニ於ケル在監人所持品取扱方客年十一月十三日兵甲第二〇六號ヲ以テ御通牒相成候處右ハ監獄則第一條第五號但書ニ據リ拘禁スル者ノ所持品ニ係ルモノニシテ囚人及刑事被告人押送規則ニ依リ保管スル物品ハ右ニ據ラス物品取扱規程樣式凡例第四項ニ依リ留置人携帶品ノ目ヲ以テ整理シ可然哉又在監人所持品ハ別ニ出納簿ヲ設クルモノヽ如ク相見ヘ候得共便宜上保管物出納簿中ニ該目ノ口座ヲ設ケ整理シ差支無之哉至急何分御回示相成度此段及照會候也

（乙號）

內務省警保局長ヨリ大分縣知事ヘ回答（明治三十四年八月十五日警大第二三號）

國第二二三號警察署ニ於ケル在監人所持品取扱方ノ件會計課長宛御照會之趣了承右ハ囚人及刑事被告人押送規則ニ依リ保管スル物品モ亦客年十一月十三日兵甲第二〇六號通牒ニヨリ在監人所持品出納簿ヲ以テ整理可相成又右出納簿ハ物品取扱規程ニ於ケル保管物出納簿トハ全ク性質ヲ異ニスルモノニ有之隨テ別冊設備可相成モノト被存候本件ハ當局主管ニ有之候條此段及回答候也

●在監人所持金品取扱ノ件

（大正二年六月十二日警神第六四號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒）

神奈川縣知事照會（大正二年三月十日丑内會收第九八五號ノ一）

警察署ニ領置スル囚人及刑事被告人所持金ニシテ本人死亡シ受取人ナキトキ又ハ逃走シタルトキ其現金取扱方ノ義ニ關シ明治三十四年中岐阜縣知事問合ニ對シ貴局ヨリノ回答ニヨレハ右ノ場合ハ監獄則第二十四條ニ依リ一ケ年ヲ經テ之レヲ受クヘキモノナキトキハ監獄悲惠ノ用ニ充ツヘキモノト有之候ニ付本縣ニ於テハ一ケ年ノ期限經過ノ上受取人ナキトキハ監獄署ニ通知シ納入告知書ノ發布ヲ待チテ歳入ニ納付ノ手續ヲ了シ來リ候處然ルニ監獄法實施後今日同然第五十七條ノ規定ニ依レハ同上ノ場合ニ於テハ單ニ國庫ニ歸屬スト有之ニ付別ニ監獄署ニ通知シ納人告知書ノ發布ヲ待タス直接取扱警察署ニ於テ保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ送付シ滿期失効ノ上歳入ニ納付ノ取扱ト爲シ得ラルヽ事ニ被存候得共差掛リタル事件モ有之候間至急何分ノ御回報煩度此段及照會候也

警保局長回答（大正二年六月十日内務省第二二八八號）

本年三月十日付丑内會收第九八五號ノ一ヲ以テ本件ニ關シ御照會ノ處監獄法第六條ニ於テ同法ニ依リ國庫ニ歸屬シタル物ハ監獄慈惠ノ用ニ充ツルノ規定有之候ニ付テハ明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ償還ヲ受ケ得ラルヘキ囚人及刑事被告人ニ係ル金品ニ對シテ從來通リ監獄ニ引繼キ候樣致度經伺ノ上及回答候

内五第四一二七號

警察署同分署ニ領置スル囚人及刑事被告人所持金ニシテ本人死亡又ハ逃走シ受取人ナキトキハ其現金警察官署ニアルト既ニ預金トシテ金庫ヘ寄託中ノモノトチ間ハス保管金規則ニ據リ失權期限ヲ付シ金庫ヘ寄託シ可然ヤ又ハ其死亡逃走ノ留置場ハ勿論押送中ト雖トモ監獄則第二十四條ニ依リ一ケ年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツヘキモノナリヤ取扱上疑義ニ渉リ候間至急何分ノ御答ヲ煩シ度此段及御問合候也

明治三十四年五月二十八日　内務省警保局長宛

警岐第二二二號ノ内

内五第四一二七號警察署同分署ニ留置スル囚人及刑事被告人所持金取扱方ノ件御問合ノ趣了承右ハ後段御意見ノ通リ被存候此段及回答候也

明治三十四年七月十五日　岐阜縣知事宛

●囚人及刑事被告人所持金取扱ニ關スル件

（明治三十四年七月十五日内務省警保局長回答）

内務省警保局長名

●囚人及刑事被告人携有金受渡ノ件

（明治三十一年一月　警第三九六號警務課通牒）

囚人及刑事被告人押送規則第三條中刑事被告人ノ携有金受渡方ハ左ノ通御取扱相成度此旨及通知候也

一刑事被告人ニシテ裁判所ヘ送致シタルトキハ其携有金ハ左ノ區別ニ依リ交付シ領收證書ヲ徵ス

拘留狀竝逮捕狀ニ依リ送致シタル刑事被告人ノ携有金ハ監獄署ノ出納官吏

拘引狀又ハ令狀未發ノ刑事被告人ニシテ即日拘留狀ヲ發スルモノハ監獄署ノ出納官吏

拘留狀ヲ執行ノ手續ニ至ラス所在地ノ警察署ニ留置スルトキハ權利者ヘ交付シ其旨該警察署長ヘ申告ノコト

●死亡又ハ逃亡セシ囚人及刑事被告人所持金處分方ノ件

（明治三十五年十月三十日付廣島縣内務部ヨリ本縣内務部ヘ通知）

國第四七六〇號、明治三十五年六月二十六日廣島縣知事問合）警察署取扱ニ係ル囚人及刑事被告人所持金ニシテ本人死亡又ハ逃亡シ一ケ年ヲ經テ之ヲ受クヘキモノナキトキハ監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈惠ノ用ニ充ツヘキモノニ有之候處本年三月二十八日付司法省令檢甲第九八號ヲ以テ内務司法兩省總務長官ヨリ通牒ノ趣モ有之總テ内務省所管トシテ取扱フヘキコトニ相成候就テハ監獄慈惠費ニモ充用難相成樣被相考候ニ付保管金規則第一條ニ依リ期滿失效ノ上歲入ヘ編入スヘキモノニ候哉又ハ直ニ收入官吏ヘ納付シ可然哉疑義相生シ候間至急何分ノ御回答相成度此段及問合候也

警甲第七九號ノ内（明治三十五年九月十二日警保局長回答）

本年六月二十六日付國第四七六〇號ヲ以テ囚人及刑事被告人所持金取扱ノ件御問合ノ處右ハ從來ノ通リ監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈惠ノ用ニ供スヘキモノト被存候條御了知相成度且右ハ内務省ノ出納官吏ニ於テ保管シ時效經過ノ場合ニ於テ監獄ニ引繼クヘキ義ト被存候此段及回答候也

●警察官吏積金規則ノ件

（明治三十四年四月　指示第三〇號）

第一條　積金額ハ各自月俸金二十分一以上トス

第二條　積金ハ毎月最寄郵便貯金取扱所ヘ預ケ入其通帳ハ課署所長ニ於テ保管スルモノトス

第三條　新任者ハ拜命ノ翌月ヨリ積立ルモノトス

第四條　增減俸ノ者ハ其ノ翌月ヨリ積金額ヲ增減スルモノトス

第五條　積金拂戾シヲ要スル時ハ事實ヲ詳具シ警視警部ニアリテハ警部長巡査ニアリテハ所屬ノ課署所長ノ承認ヲ受クルモノトス

但シ各署長及署詰警部ニシテ臨時必要ヲ生シ承認ヲ受クル暇ナク拂戾シタルトキハ其事由金額ヲ直チニ報告スルヲ要ス

●警察官積金ハ郵便局ヘ預ケ換ノ件

（明治三十七年三月　警第一〇八八號警務課長通牒）

從來ノ警察官積金ニシテ銀行等ヘ預ケ入相成居候分ハ此際郵便局ヘ預ケ換ヘ相成候樣御計相成度此段及通知候也

第六章　納金及懲罰金控除

有給縣吏員及吏員職員納金收入規則

（明治四十三年二月二十三日　岐阜縣訓令甲第四號）

沿革　大正二年五月訓令甲第二四號、一二年一〇月第二六號改正

知事官房　内務部　警察部　郡役所
警察署　縣立學校　測候所　縣立農事試驗場
工業試驗場　縣立種畜場　罹病豫防事務所　物産館
縣立病院　驅黴院　縣金庫

第一條　岐阜縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料死亡給與金給與規則第二十六條ノ納金ハ俸給仕拂ノトキ縣金庫ニ於テ之ヲ差引クヘシ但シ現金前渡ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナス時ハ當該官吏吏員ニ於テ之ヲ差引クヘシ

第二條　仕拂命令者ハ俸給ノ仕拂ヲナストキ第一號樣式ニ依リ仕拂金額ノ次ニ現金支給高、縣納金引去高ノ内譯ヲ付記スヘシ、

第三條　縣金庫ニ於テ前條ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ其ノ内譯ヲ列記シタル（集合仕拂命令、送金集合仕拂命令ニ附屬スル金額氏名表中ノ者ヘ交付スルトキハ該氏名表金額ノ内譯ニ依ル）現金支給高ヲ受取人ニ交付シ縣納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ依リ一旦之ヲ拂出シ直ニ之ヲ相當年度ノ縣稅歲入ニ振換ヘ即日第二號書式ノ縣納金引去高收入報告書ヲ調製シ之ヲ其ノ所屬收入命令者ニ送付スヘシ

第四條　現金前渡ヲ受ケタル官吏員ニ於テ俸給仕拂ノ際納金額ヲ差引收入シタルトキハ同時ニ前渡金ノ內ヨリ一旦納金額ヲ拂出シ之ヲ其ノ所屬廳ノ縣稅歲入トシテ縣金庫ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ但シ收入命令ヲ委任セラレタル廳廨ニ在リテハ第三號書式ノ納金額氏名表ヲ添ヘ翌月五日マテニ之ヲ縣廳ノ出納吏ニ送付スヘシ

第五條　納金ヲ要スル仕拂命令ノ金額氏名表ハ第四號書式ニ依リ調製シ縣金庫ニ送付スヘシ

納金ヲ要スル仕拂通知書ハ第五號書式ニ依リ調製スヘシ但シ總代人ニ仕拂ヲ爲ストキハ何某トアル肩書ニ何廳勤務何ノ誰外何人代人ト記入シ尙適宜ノ書式ニ依リ仕譯書ヲ添附スヘシ

第六條　每年度三月三十一日ヲ過キ發スル前年度所屬ノ仕拂命令、金額氏名表及仕拂通知書ニハ縣納金引去高ノ左傍ニ某年度歲入（仕拂命令發行日ノ年度）ト朱記スヘシ

第七條　俸給ノ增減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給仕拂ノトキ之ヲ整理スヘシ

免職退職轉任死亡等ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ百分ノ一ヲ差引クヘシ

第八條　前各條ニ規定シタルモノノ外納金收入整理ノ手續ハ本號會計規則及同細則ニ據ルヘシ

第九條　恩給法第五十九條ニ依ル待遇職員ノ納金ニ付テハ本則ノ例ニ依ル

附　則

本則ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

○第一號書式　甲

用紙適宜縱六寸二分ノモノ二枚接續　橫三寸八分

第　何　號　（又ハ何ノ誰外何人代人何ノ誰渡）　何ノ　誰　渡

大正何年度　縣稅（何々）

一金五拾圓也

內譯

金四拾九圓五拾錢　現金支給高

金五拾錢　縣納金引去高

（朱書）某年度歲入

本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

仕拂命令者（職）氏　名　㊞

此仕拂命令ノ現金ニ對シテハ仕拂ヲ爲ス此命令ノ記載ハ翌年度ノ三月三十一日ヲ限リ仕拂ヲ爲スヘシ

通常仕拂命令

仕拂命令者割印

案内仕拂命令

第　何　號

大正何年度　縣税（何々）

一金五拾圓也
内譯
金四拾九圓五拾錢　現金支給高
金五拾錢　縣納金引去高

（朱書）某年度歳入

右仕拂命令本日發行ス

大正何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

仕拂命令者官（職）氏　名㊞

備考

送金仕拂命令ハ本書式竝會計規則中第三號樣式ニ準シ調製スヘシ

（何ノ誰外何人代人何ノ誰渡）

誰　渡

○第一號書式　乙

用紙適宜縱六寸二分　横三寸八分

集合仕拂命令

第　何　號

何某外何人渡

大正何年度　縣税（何々）

一金百圓也
内譯
金九拾九圓也　現金支給高
金壹圓也　縣納金引去高

（朱書）某年度歳入

本行ノ金額此仕拂命令附屬ノ金額氏名表ニ照シ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

仕拂命令者官（職）氏　名㊞

備考　送金集合仕拂命令ハ本書式竝會計規則中第五號樣式ニ準シ調製スヘシ

○第二號書式

某年度歲入縣納金引去高收入報告書

取扱縣廳	仕拂命令年月日	仕拂命令番號	債主官職氏名	收入金額	備考
				圓 厘	備考 仕拂命令番號每ニ記載スルモノトス但シ集合仕拂ニ係ルモノハ債主官職氏名ノ欄ニ何官職某外何人トシ收入金額ノ欄ニハ其ノ計金ヲ記入スルモノトス
			計	圓 厘	
		明治何年何月何日			
				岐阜縣本(支)金庫印	
		何廳收入命令者官(職)氏名宛			

○第三號書式

何年何月分 某年度縣納金額氏名表

債主氏名	收入金額	備考
某 圓何俸月職官何	圓 厘	備考 一債主氏名欄ノ月俸額ハ其ノ月末日ニ於ケル月俸額ヲ掲クルモノトス 一備考ノ欄ニハ新任轉任休職增減俸等其ノ月內ノ異動及俸給額算出ヲ要スル事項其ノ他出納吏ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ詳記スルモノトス
計	圓 厘	
面之通及	御引繼候也	
明	治何年何月何日	
	何廳現金前渡ヲ受ケタル出納官吏(職)氏名印	
何廳出納吏	官(職)氏名宛	

○第四號書式　用紙適宜半紙判

明治何年度縣稅（何々）集合（送金集合）仕拂命令第何號金額氏名表

一金百圓也

內

金九拾九圓也

金壹圓也

內譯

現金支給高

縣納金引去高

（朱書）某年度歲入

俸給高	現金支給高	縣納金引去高	番號	送金先場所（所在地拂ノ分ハ斜線ヲ施スヘシ）	債主氏名
五〇〇〇	四九五〇〇	〇五〇〇	一	何府縣郡市町村番戶	何　某
三〇〇〇	二九七〇〇	〇三〇〇	二	何郡市町村番戶	何　某
二〇〇〇	一九八〇〇	〇二〇〇	三	何　々	何　某

明治何年何月何日　　仕拂命令者官（職）氏　　名㊞

何總勤務　何ノ誰外何人俸給高

○第五號書式　用紙適宜半紙半片判

第何號　仕拂金庫名　岐阜縣某金庫

明治何年度縣稅（何々）（朱書）送金仕拂

仕拂命令第何號（仕拂命令第何號金額氏名表第何號）

一金參拾圓也

內譯

現金支給高

縣納金引去高

（朱書）某年度歲入

金貳拾九圓七拾錢

金參拾錢

但何々（仕拂ノ目的其ノ他受取人ニ於テ仕拂ノ請求ヲ爲セシ年月日等ヲ適宜記載スヘシ）

右金額ニ對スル仕拂命令本日前記縣金庫ニ交付候條該金庫ヨリ現金ヲ受取ラルヘシ

明治何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏　　名㊞

（何地）何　某殿

受取人縣金庫ヨリ現金受取ノ際次ノ欄內ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ之ヲ該金庫ニ交付セラルヘシ

通知書

前書ノ金額領收候也

明治何年何月何日

受取人

何　某㊞

備考　送金仕拂ノモノハ經濟名ノ下ヘ式ノ如ク朱記スルモノトス

●過渡俸給ニ對スル國庫納金引去方

（明治四十三年八月九日福第二九號）
（内務大臣官房會計課通牒）

過渡俸給ノ返納ヲ要スル場合ニ於ケル國庫納金ノ差引方ニ關シ曩ニ通牒又ハ御照會ノ向ニ對シ回答致置候趣モ有之候處右ハ返納金ノ百分ノ一ヲ差引シ返納セシムルコトニ改メ候間此段爲念及御通牒候也

●巡査懲罰金控除ノ件

（明治二十六年四月）
（岐阜縣訓第五一號）

警察部　警察署

巡査懲罰金ノ儀明治二十六年度ヨリ減俸ト同シク俸給中ヨリ控除スヘシ
右訓令ス

●巡査懲罰金控除方法

（明治三十年二月）
（指示第八號）

巡査看守懲罰金控除方ノ儀今回左ノ通決定相成候ニ付以來各項ニ據リ取扱フヘシ

一　懲罰金ヲ科セラレタル者俸給支給ノ際誤テ其懲罰金ヲ控除セサリシトキハ其控除セサリシ金額ハ返納セシムヘキコト
但會計年度ヲ跨ラサルトキハ後月俸給支給ノ際控除スルモ妨ケナシトス

一　懲罰金ヲ科セラレタル者完濟前ニ於テ免職死亡等ノトキハ其ノ俸給支給スルモ前項ノ場合ヲ除ク外懲罰金ヲ控除セサルコト

一　懲罰ノ辭令書其月ノ俸給支給後到達シタルトキハ翌月俸給支給ノトキヨリ之ヲ控除シ若シ同月免職死亡等ノトキハ其控除ヲ爲サヽルコト

●巡査懲罰金ニ關スル件

（大正十年十月十九日）
（内務省發警第七五號）

巡査懲罰例第一條ニ依リ科セラルヽ罰金ノ割合ニ付テハ巡査給與令第四條ノ二及第四條ノ三ノ功勞精勤兩加俸ハ之ヲ加算シ算出スヘキ義ト御了知相成度候

第七章　豫算

第一款　豫算

●縣費ニ屬スル豫算及議案調製順序竝豫算外ノ收入支出及豫算超過ノ支出及豫算流用手續

（大正五年六月十四日岐阜縣訓令甲第二十三號）

知事官房　内務部　警察部　〔郡役所〕
警察署　縣立學校　測候所　縣立農事試驗場
工業試驗場　縣立種畜場　畜業取締所　〔原蠶種製造所〕
〔農事講習所〕　米穀檢査所　物産館　縣立病院
娼妓病院

明治四十一年六月岐阜縣訓令第三十八號縣費ニ屬スル豫算及議案調製順序竝豫算外ノ收入支出及豫算超過ノ支出及豫算流用手續左ノ通改正ス

第一條　〔郡長〕、警察署長、縣立學校長、測候所長、縣立農事試驗場長、工業試驗場長、縣立種畜場長、畜業取締所長、〔原蠶種製造所長〕、農事講習所長、穀物檢査所長、〔物産館長〕、縣立病院長、娼妓病院長ハ其ノ所管ニ屬スル翌年度歳入歳出豫算調書ヲ調製シ毎年六月三十日迄ニ警察署長、縣立病院長、娼妓病院長ハ警察部長ニ其ノ他ハ内務部長ニ提出スヘシ

第二條　警察部長知事官房主事及内務部各課長ハ其ノ所管ニ屬スル翌年度歳入歳出豫算調書ヲ調製シ毎年七月三十一日迄ニ内務部長ニ提出スヘシ

内務部長ハ前項ノ豫算調書ヲ査閲シ内務部第一課長ヲシテ歳入歳出總豫算案ヲ調製セシメ意見アルモノハ意見ヲ付シ九

月一日迄ニ豫算會議ニ付スヘシ

第三條　豫算會議ハ內務部長、警察部長、知事官房主事、各課長及知事ノ指定シタル官吏吏員列席スヘシ

第四條　警察部長、知事官房主事及內務部各課長ハ豫算會議ノ決定ニ基キ豫算內譯書ヲ更正シ直ニ內務部長ニ提出スヘシ

第五條　內務部長ハ豫算會議ノ決定ニ基キ內務部第一課長ヲシテ縣會ニ提出スヘキ豫算案ヲ調製セシメ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第六條　豫算調書ハ第一號樣式ニ依リ各款毎ニ調製シ第二號樣式ニ依ル內譯書及左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、新事業ニ係ルモノハ其ノ經營ノ理由要領竝關係法規

二、補助ヲ要スルモノハ其ノ必要ナル理由竝補助ノ方法但補助率ノ定メアルモノハ補助方法ヲ省略スルコトヲ得

三、吏員職員ニ關係アル豫算ニアリテハ各費目毎ニ最近現在人員竝給額表

四、新築增築改築及指定修繕工事ニアリテハ其ノ設計ノ要旨竝簡易ナル平面圖但シ工事ノ簡易ナルモノハ圖面ヲ省略スルコトヲ得

五、土木費指定工事ニアリテハ箇所毎ニ其ノ施行ヲ要スル理由

第七條　豫算ノ外通常縣會ノ決議ヲ要スヘキ事項又ハ臨時縣會若ハ縣參事會ニ提出スヘキ豫算及其ノ他ノ議案ノ調製手續ハ第二條第五條及第六條ヲ準用ス

第八條　歲出豫算各款內項ノ金額ヲ流用セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ第三號樣式ノ調書ヲ添ヘ內務部長ニ提出スヘシ

內務部長ハ前項ノ書類ヲ查閱シ內務部第一課長ヲシテ縣參事會ニ提出スヘキ議案ヲ調製セシメ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第九條　豫算外ノ收入支出又ハ豫算超過ノ支出ヲ要スルトキハ前條ヲ準用ス

附　則

本手續ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○第一號樣式

大正何年度何費豫算說明

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何圓ヲ增(減)ス其ノ理由ハ何々ノ爲減(增)シタルモ何々ノ爲增(減)シタルニ由ル

歲入(出)經常(臨時)部

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較增減	增減事由
何々(款)				
何々(項)				
何々(目)				
何々(節)				
何々(節)				
何々(項)				
何々(目)				
何々(節)				
何々(節)				
備考				

一、前年度豫算高ハ現年度ノ通常縣會決議額ヲ揭クルモノトス

二、各節ノ金額ハ法令ノ結果若ハ契約等ニ依リ縣ノ義務ニ屬スル歲出ニシテ圓位未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切上ケ圓位ニ止メ其ノ旨備考ニ記載シ款項目ノ金額ハ總テ切捨ヲ圓位ニ止ムヘシ

三、豫算ニ增減ナキモ內容ヲ異ニスルモノハ之カ事由ヲ記載スヘシ

四、前年度豫算ニ科目アリテ本年度豫算ニ科目ナキモノハ朱記スヘシ

○第二號樣式

大正何年度何々費豫算內譯書

種別	金額	附記	內譯	
			何々費(何々事業)	何々費(何々事業)
			金額	附記 金額 附記
總額				
俸給				
技師		何人一人月俸平均何圓		
技手		同		
何々		同		
雇員給				
雇		同		
旅費				
管內旅費				
管外旅費		同		
赴任旅費		同		
新任旅費		同		
何々旅費		同		
雜給				
小使		何人一人日給平均何程		
農夫		同		
何々				
所費				
備品費				
指定備品費				
何々		何個一個何程		
何々				

車馬費	何里一里何程	
鐵道費	何哩一哩何程	
日當	何日一日何程	
宿泊費	何夜一夜何程	

普通備品費			
消耗品費			
指定消耗品費			
何々	何枚一枚何程		
何々			
普通消耗品費			
印刷費			
氣象月報	何部一部何程		
臨時報告書			
何々			
通信運搬費			
通信費			
電話使用料			
電話維持料			
正午通報料			

天氣報告料			
何々			
運搬費			
手數料			
廣告料	何々ノ爲廣告		
何々			
賄費			
職員賄費	何度分一度何程		
小使賄費	同		
被服費			
何々被服費	何組一組何程		
雜費			
何々			
何々			
修繕費			

指定修繕費									
普通修繕費									
何々									
何々									
何々									
何々									
何々									

備考

一、附記欄ニハ算出ノ基礎ヲ明記スヘシ

二、新事業ノ爲ニ要スルモノハ欄外ニ之ヲ明記スヘシ

三、歳入内譯書ハ本表ニ準シ調製スヘシ

四、本表内譯欄ニ何々應解トアルハ例令ハ地方測候所費ヲ「岐阜測候所」「高山測候所」ニ内譯シ「何々事業」トアルハ勸業費、勸業諸費、耕地整理奬勵費ヲ「部分設計」「工事監督」「土地改良指導」「庶務」ニ内譯スルヲ云フ

◎第三號樣式

大正何年度歳出經常(臨時)部何々費(款)項流用調書

科目	本年度豫算高	支拂濟額	今後所要見込額	差引現在額	流用金額	摘要
何々(項)						
何々(目)						
何々(項)						
何々(目)						

●費目流用竝財務ニ關スル件

(明治三十三年三月十三日 内務省令第七號)

沿革 明治四四年五月内務省令第六號、四五年二月第一號、大正元年第一一月第一二號改正

第一條 府縣稅其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第四條 歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ仕拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額現金前渡前金拂概算拂繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

第四條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六條　繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第七條　毎年度歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度六月三十日限リトス

第八條　府縣ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後四箇月以内ニ完整スヘシ

第九條　歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十條　歳入歳出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十二條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受クタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ機密費ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條　會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生シ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條　府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ檢査員ヲ命シ少クトモ毎年一回之ヲ檢査セシムヘシ

府縣出納吏解職セラレタルトキハ府縣知事ハ檢査員ヲシテ現金及帳簿ヲ檢査セシムヘシ

第十八條　府縣ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲府縣金庫ヲ置ク

第十九條　府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス

第二十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十二條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提出スヘシ

第二十二條ノ二　府縣知事ハ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ニ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ハル所ニ依リ利子ヲ府縣ニ納付スヘシ

第二十三條　府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ檢査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ檢査セシメ又必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十五條　本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス但シ本令ノ規定ニシテ適用シ難キモノハ内務大臣ノ認可ヲ得テ當分其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條　〔郡〕ノ財務ニ關スル規定ハ本令ニ準シ府縣知事之ヲ定ム

●警察費月定額及支出計算表ノ件

（明治三十四年四月指示第一六號）

沿革　明治四一年三月指示第一號改正

警察費仕拂豫算月定額相定メタルニ付テハ其月ニ於テ支出ヲ要スル事由ヲ生シタル者ハ其月内ニ於テ支出シ未拂無之樣注意シ明治三十三年十月指示第二七號警察費支出明細表左ノ通更正シ調製ノ上翌月七日限リ差出スヘシ

（別紙）

大正　年度　警察費月定額表　警察署

科目	豫算高	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
警察費													
俸給及諸給													
俸給													
警部補巡査俸給													
技術者俸給													
旅費													
月額旅費													
普通旅費													
雜給													
給料													
刑事會計武術師諸手當													
其他													
賞與													
廳費													
備品費													
消耗品費													
圖書及印刷費													
通信運搬費													
賄費													
警部補巡査及小使賄													
其他													
被服費													
雜費													
宿料及雜費月額													
其他													

●警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方ノ件

（明治二十一年二月二十五日　內務省訓令第四號）

警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方之儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算ノ上殘金ヲ生セシトキハ戻入ニ相立ヘシ但會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘捨置キ決算ノ上該殘金ハ直チニ現年度ノ第二部歳入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

●警察費及警察廳舍建築修繕ノ精算書附屬仕譯明細書

（明治三十年六月　指示第二七號）

警察費及警察廳舍建築修繕費ノ豫算書付屬仕譯明細書ハ自今別紙書式ニ依リ精密調査シ差出スヘシ

但區劃徵收及檢徵所ヲ管理スル署ニ於テハ衛生及病院費豫算書モ此書式ニ準據シタル明細書ヲ添付スヘシ

（書式略ス）

●警察廳舍修繕費支拂明細表

（明治四十一年三月四日　指示警第二號）

警察廳舍修繕費明治四十一年四月ヨリ別紙樣式ニ依リ調製シ翌月七日限リ差出スヘシ

（別紙）

明治　年　月分警察廳舍修繕費支拂明細表　警察　署

科目	豫算額	前月迄仕拂額	本月仕拂額	殘額	備考
警察廳舍修繕費					
警察署指定修繕費					何所修繕何圖何月何日認可ヲ受ク何圖何所修繕
警察署通常修繕費					何所修繕何圖何々修繕何圖
派出所指定修繕費					何派出所何所修繕何圖何月何日認可ヲ受ク
派出所通常修繕費					何派出所何所修繕何圖
駐在所指定修繕費					何駐在所何所修繕何圖何月何日認可ヲ受ク
駐在所通常修繕費					何駐在所何所修繕何圖

●警察費月定額ニ付注意ノ件

（明治三十年五月　警第二六六九號）

警察費月定額ノ規定ヲ設ケラレタルハ豫算額維持ノ爲メ節約ノ目的トスル儀ニ外ナラサルヲ以テ年度始メニ於テ每月相當額ヲ定メタル上ハ非常事件ノ外決シテ支出相成難ク萬一止ヲ得サル場合ニ於テハ施行前其事由ヲ具シ申請ヲ要スル筈ノ處近來支出ニ際シ申請セラルヽ向往々有之月定額ノ規程ヲ設ケラレタル要旨ニ悖戻スルノミナラス事後申請セラルヽモ豫算維持上何等ノ效果ヲ視ル能ハサル儀ニ候條從來トテモ充分御注意相成居候向モ有之候得共中ニハ月定額ノ旨意ヲ無視シ支

出後翌月ニ至リ故ラニ該月末日付ヲ以テ申請相成候向有之稟當ナラサル儀ト存候條以來非常事件ニシテ豫備費ヨリ支出ヲ要スルモノヽ外ハ月始ニ於テ月定額ノ過不足ヲ量リ變更ヲ要スルモノハ申請シ仕拂豫算額維持上一層御注意相成度依命此段及通知候也

昭和　年度　年　月分書籍費月定額支出計算表　書籍屋

科目	仕拂豫算 越高	仕拂豫算 本月中請	仕拂豫算 計	月定額 前月ヨリ越高	月定額 本月分月定額	月定額 計	本月仕拂額	月定額ノ翌月越高	支拂計算	仕拂豫算額	附記
書籍費											
俸給及諸給											
俸給											
書部補充書俸給											
技術者俸給											
旅費											
月領旅費											
車運旅費											
雜給											
給仕小使給料											
刑事會計武德館顧問請手當											
其他											
賄費											
備品費											
消耗品費											
圖書及印刷費											
通信運搬費											
賄費											
書部補充書及賄小使											
其他											
被服費											
雜費											
宿費 料及雜費											

末他

昭和　年　月分警察署舍修繕費支拂明細表

科目	仕拂豫算			前月迄仕拂額	本月仕拂額	差引	殘額	備考
	當高	本月中增減	計			拂計		
警察署舍修繕費								
修繕費								
警察署修繕費								
指定修繕費								
通常修繕費								
派出所及駐在所修繕費								
指定修繕費								
同上通常修繕費								

仕拂豫算增減欄增ノ黑減ノ朱書シ附記欄ニハ警察費豫算額及月定額戻入未仕拂等ノ事由ヲ記入シ備考ニハ警察署舍修繕費豫算額ノ異動及本月仕拂額ノ修繕箇所ヲ記入スルモノトス

●警察費月定額變更申請書式ノ件

（明治三十五年五月警第三一六六號）

警察費月定額ノ件ニ付テハ本年五月警第二六六九號ヲ以テ依命通牒致置候通リ豫備及繰上支辨ノ儀緊急事件ノ外ハ容易ニ支出不相成筈ノ處屢々月定額ニ不足ヲ告ケ豫備又ハ繰上ケ支辨申請相成候モ其不足ヲ生セシ事後ニ係ルモノ多キノミナラス支出ヲ要シタル事由不明ニシテ證議上差支候條以來左ノ書式ニ據リ臨時事件ノ外ハ必ス前以テ申請相成度依命此段及通牒候也

何月分警察費月定額ノ件申請書

費目	節	事由	金額
旅費	區內月額	何人分	一五〇〇〇
	區內旅費	部長何々ノ件ニ付何地ニ出張ヲ要シ又ハ臨時何々ノ爲メ何月何日何地ヘ出張セシメタル分金何程何々出張金何程	同
	區內巡回	何月何日ヨリ何々迄巡回何月ヨリ何日迄何泊	同
	護送旅費	何月何日ヨリ何々迄何地ヨリ何地ヘ何回一回金何程此金何程何地ヨリ何地ヘ何回一回金何程此金何程	同
	證人召喚	何々ノ件ニ付何裁判所ノ召喚ニ付何月何日出張一回金何程	同
	赴任旅費	何署ヨリ何ノ誰何月何日赴任金何程	同
	所轄外旅費	何々ノ件ニ付何々ノ爲メ出張ヲ要スルニヨリ何月何日ヨリ又ハ何月何日出張セシメタルニヨリ金何圓何々ニ付何々金何圓	同
何々	何々		同

計	金何圓 金何錢	何月分月定額補充 何月ニテ豫備支出補充	同
外			
合計	金何圓何拾錢		
內	金何圓何拾錢	月定額	
差引	金何圓	不足	
	內金何圓	何月分ヨリ繰上又ハ豫備ヨリ支出 何月ニテ何程何月ニテ何程補充ス	
諸傭給			
小使給	何人分		
書狀持人足	何月何日何々ノ件ニ付郵送スル能ハス何地ヘ又ハ何駐在所ヨリ何度		同
何々			同
計以下書式旅費目ニ同シ			
諸手當			
警察醫	何月何日及何月何日何々ノ爲メ檢診何度何日分又ハ何地ニ於テ變死檢案ノ爲メ何度何日分		同
何々			同
計以下前ニ同シ			

通信運搬費			
郵便	何度通常平均何度ノ處何月何日何々ノ爲メ何度ヲ增ス		同
電信	何月何日何々ノ件ニ付至急ヲ要シ何音信何地ヘ何度		同
計以下書式前ニ同シ			
賄費			
監獄費辨償ニ係ル分	換刑拘留何月何日ヨリ何日迄又ハ何月何日何人何日延賄何度一度何錢		同
前項以外ノ留置人	何月何日何人延賄何度一度何錢		
巡査宿直	何人延何度ノ見込		
小使宿直	何人延何度ノ見込		
計以下前ニ同シ			
雜費			
何々	何々		
何々	何々		

前記ノ通リ本月ニ於テ支出ヲ要シ節減ノ方法モ相立難ク止ヲ得サル儀ニ付一時豫備又ハ何月分ヨリ繰上ケ支辨シ何

月ニ於テハ必ス補充可致ハ勿論年度末ニ至リ不足ヲ生セサル樣注意可致候間御認可相成度此段及申請候也

●月定額五十錢以内繰上支辨ノ件

（明治三十八年四月二十七日　警第二二一三號第四部長通牒）

警察費月定額ノ内備品費及圖書印刷費ヲ除ク他ノ費目ニ於テ金五拾錢以内ノ繰上ヲ要スルトキハ翌月ニ於テ補充ノ見込確實ナルトキニ限リ申請ニ及ハス候條其都度報告セラルヘシ

●警察醫旅費豫算維持ノ件

（大正五年四月五日　警第二二二〇號）

警察醫旅費豫算維持上本年度ヨリ貴署勤務ノ警察醫ニ屬スル分毎月左記定額ヲ超過セサル樣御措置相成度此段及通牒候也

左記

岐阜	月定額	拾貳圓
大垣	同	九圓
多治見	同	拾圓
高山	同	九圓

●警部補巡査赴任旅費ニ關スル件

（大正十五年六月二十一日　警第三七六六號通牒）

警部補巡査各署間轉任赴任旅費ハ舊任署ニ於テ支拂フヘキ規定ノ處從來配當豫算其他ノ關係上赴任後數日ヲ經テ交付シ居ルモ本人出發前概算拂ノ手續ニ依ルヲ便宜トスルモノ有之候ニ付テハ本年七月一日以後警部補巡査各署間轉任赴任旅費ニ限ツテハ左記ノ通取扱ハルヘク此段及通牒候也

記

一、警部補巡査各署間赴任旅費ハ可成概算拂ノ手續ヲ以テ本人出發前支拂フコト
二、前項赴任旅費ハ其署配當豫算中ヨリ月定額ニ關セス支拂差支ナシ
三、警察費月定額支出計算表送達ノ際赴任旅費支拂ノ有無ニ拘ラス別紙樣式ニ依ル計算表添付ノコト
四、警察費月定額支出計算表旅費欄ニハ赴任旅費支拂額及配當豫算等一切ヲ算入掲記セス作表セラルヘシ
五、赴任旅費計算表ニ於ケル月別ハ辭令到達ノ日ノ屬スル月ヲ以テス
六、所屬署管内赴任旅費ハ其署配當豫算ヲ以テ經理スヘキハ從來ノ通ニシテ各署轉任ニ屬スル分ノミ本取扱ニ依リ該豫算ハ時宜配當ノ見込ナルモ年度末等ニ於テ差當經理上支障ヲ來タスカ如キ場合ハ速ニ其事由報告スルコト
七、警察費月定額支出計算表作成ノ際普通旅費附記欄ニ本件赴任旅費支拂後ノ現在殘額ヲ毎月必ス記載シ署クコト

大正　　年度　　月分警部補巡査赴任旅費計算表　　警察署

科目	前月迄仕拂濟額	本月分仕拂濟額	額 計	豫算令達額	過不足	計	記
警部補巡査赴任旅費							

附記欄ニハ未仕拂ノモノハ氏名及金額ヲ各別ニ未記スルヲ要ス

本月中赴任旅費仕拂濟明細書

官	氏名	鐵道賃	車馬賃	日當	宿泊料	赴手當	移轉料	家族移轉料	計	家族數

| | | |

令達番號

縣金庫名

左ノ金額ヲ支出シ大正何年度縣稅(又ハ何々)歲入ニ受入ルヘシ

明治何年何月何日

知事氏名㊞

明治何年度縣稅(又ハ何々)歲出

一金何程

●縣經濟收入支出金取扱順序

(明治四十一年九月四日岐阜縣訓令丙第二號)

豫算

第一條　歲入歲出ノ豫算決定シタルトキハ內務部地方課ハ其ノ各目ノ明細書ヲ製シ豫算ト共ニ之ヲ內務部會計課ニ送付スヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ

歲入歲出豫算中項ノ金額ヲ流用シタルトキハ內務部地方課ヨリ目ノ金額ヲ流用シタルトキハ主掌ノ部課(知事官房ヲ含ム以下同シ)ヨリ之ヲ內務部會計課ニ通知スヘシ

內務部會計課ハ前兩項ノ書類ニ依リ其ノ豫算ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第二條　內務部地方課ハ前條豫算中目ノ金額數部課ニ涉ルモノ又ハ主掌ノ部課判明ナラサル科目ニ對シテハ其ノ部課ノ區分ヲ爲シ內務部會計課ニ通知スヘシ但シ明細書備考等ニ依リ本條ノ事項判明ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　會計規則第二十五條ニ依リ仕拂命令委任ノ令達ヲ爲サントスルトキハ主掌ノ部課ニ於テ之ヲ起案シ內務部地方課及同會計課ニ合議シ執行ノ上直ニ其ノ決議書ヲ內務部會計課ニ送付スヘシ其ノ仕拂命令委任額ヲ變更スルトキ亦同シ

仕拂命令委任ノ令達書ハ第一書樣式ニ依ル但シ豫算外ノ事項ニシテ豫算費ヲ以テ支辨スヘモノハ其ノ旨附記スヘシ

內務部會計課ハ第一項ノ決議書ニ基キ縣金庫ニ會計規則第二十七條ノ仕拂豫算令達ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　會計規則第二十六條ニ依リ仕拂豫算ノ流用ヲ許可セントスルトキハ主掌ノ部課ニ於テ起案シ內務部地方課及同會計課ニ合議シ決定シタルトキハ直ニ其ノ決議書ヲ內務部會計課ニ送付スヘシ

第五條　內務部會計課ハ第三條ノ仕拂豫算及前條ニ仕拂豫算流用ヲ帳簿ニ登記スヘシ

收入

第六條　收入金ニ對シテハ主掌部課ノ主任者ニ於テ其ノ收納スヘキ金額事由年度科目納入ノ住所氏名及納期アルモノハ其ノ期日ヲ詳記シタル第二號樣式ノ收入金調書ヲ製シ課長(知事官房ハ主事以下同シ)部長ノ認印ヲ受ケ且收入ニ關スル書類ヲ添付シテ之ヲ內務部會計課ニ送付スヘシ

第七條　內務部會計課主任者ハ前條ノ書類ニ依リ其ノ收入金ニ關スル事項ヲ調査シ課長部長ノ調査ヲ經テ決裁ヲ受ケ納入告知書ヲ製シ其ノ調定額ヲ帳簿ニ登記シ收入金調書及附屬書類ハ之ヲ保存シ納入告知書ハ納人ニ交付スヘシ但シ現金ヲ出納吏ニ納付セシムル場合ニ於テ納入告知書ヲ發セサルモノハ本條ノ收入金調書ニ依リ其ノ調定額ヲ帳簿ニ登記スルモノトス

第八條　內務部會計課ハ縣金庫ヨリ前條ノ收入金領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ出納吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ直ニ其ノ收入濟額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第九條　會計規則第十條ノ收入計算書歲入調定額計算書及各其ノ附屬證憑書ハ內務部會計課主任者ニ於テ檢査シ課長部長査閱ノ後知事ノ閲覽ニ供シテ其ノ收入計算書ニ依リ調定濟額收入濟額不納缺損額ヲ登記スヘシ

支出

第十條　支出金ニ對シテハ主掌部課ノ主任者ニ於テ受取人ノ請求書及其請求ニ關スル事實ヲ調査シ支出金ノ年度科目及仕拂期日アルモノハ其ノ期日ハ詳記シ課長部長ノ認印ヲ受ケ且支出ニ關スル書類ヲ添付シテ之ヲ內務部會計課ニ送付スヘ

シ

工事ノ受負又ハ物品ノ供給ニ對スル代價ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ主任者ヲシテ其ノ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納ニ係ル證明ヲ爲サシメ前項ノ請求書ニ添付スヘシ

郵便切手代金ノ如キ受取人ノ請求書ヲ徵シ難キモノ及請求書ヲ徵スル必要ナシト認ムルモノハ主任者ノ支出調書ヲ以テ第一項ノ請求書ニ代用スルコトヲ得

受取人ノ請求書若ハ主任者ノ支出調書ハ規定アルモノノ外成ルヘク第三號樣式ニ依ルコトヲ要ス

第十一條　內務部會計課主任者ハ前條ノ書類ニ依リ其ノ支出金ニ關スル事項ヲ調査シ課長部長ノ調査ヲ經テ決裁ヲ受ケ仕拂命令ヲ調製シ仕拂請求書若ハ支出調書及各其ノ附屬書類ハ之ヲ保存シ仕拂命令ハ會計規則ノ規定ニ依リ受取人ニ交付シ又ハ縣金庫ニ送付シテ其ノ支出額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第十二條　前兩條ニ依リ歲出ノ支拂ヲ爲スハ翌年度五月三十一日ヲ超ユヘカラス但シ特別ノ事由ニ依リ本條ノ期限ヲ過キ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ主掌ノ部課ハ其ノ金額事由及第十條ニ依リ仕拂請求書ノ送付ヲ爲スヘキ時日ヲ豫定シ該期日マテニ內務部會計課ニ通知スヘシ

第十三條　會計規則第五十三條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル出納吏ヨリ提出シタル仕拂計算書ハ課長部長ノ認印ヲ受ケ附屬證憑書ト共ニ內務部會計課ニ送付スヘシ但シ內務部長及內務部會計課長ノ認印ハ之ヲ受クルヲ要ス

內務部會計課主任者ハ前項計算書及附屬證憑書ヲ檢査シ課長部長査閱ノ後知事ノ閲覽ニ供シテ其ノ精算額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第十四條　會計規則第二十四條ノ支出計算書及附屬證憑書ハ內務部會計課主任者ニ於テ之ヲ檢査シ課長部長査閱ノ後知事ノ閲覽ニ供シテ其ノ支出額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

決　算

第十五條　內務部會計課ノ主任者ハ會計細則附則第四十四號樣式ニ準シテ收入ノ計算書同第四十六號樣式ニ準シテ支出ノ計算書ヲ毎月調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ課檢査ノ主任者ニ送付スヘシ

前項計算書ニ添付スヘキ證憑書ニ關シテハ會計細則第八章ノ規定ニ依ル

第十六條　內務部會計課檢査ノ主任者ハ前條ノ計算書及證憑書類ヲ檢査シ課長部長査閱ノ後知事ノ閲覽ニ供シ第九條及第十四條ノ計算書及其ノ證憑書類ト共ニ類別シテ之ヲ整理シ置クヘシ

第十七條　內務部會計課ハ毎年度歲入歲出決算額ノ豫算額ニ對スル增減比較表ヲ調製シ主掌ノ部課ニ送付シ其ノ增減ノ事由說明ヲ得テ決算報告書ヲ調製スヘシ

前項比較表ノ送付ヲ受ケタル部課ハ決算額ノ增減セシ事由ヲ詳細說明シ比較表ト共ニ七日以內ニ會計課ニ送付スヘシ

○第一號樣式　（用紙罫美濃紙）

岐阜縣訓令何第　號

何年度歲出支拂豫算左ノ通相定メ候（增額シ）（廳廨長ニ）仕拂命令ヲ委任ス

年　月　日

廳廨長

知事　氏　名　㊞

一金　何程　　經常部（臨時部）

內譯

金何程　何費（款）

內　何々（項）

金何程　何々（目）

金何程　何々（目）

備考

第二編　會計　第七章　豫算　第一款　豫算

一、二款以上ノ仕拂命令ヲ委任セムトスルトキハ各款列記スヘシ

一、項以下ノ內譯ハ適宜ノ式ニ依リ別紙ニ認ムルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ款ノ金額ノ傍ニ「內譯別紙ノ通」ト記載スヘシ

一、豫算外ノ事項ニシテ豫備費ヲ以テ支辨スヘキ經費ハ其ノ費目ノ傍ニ「但シ豫算外ニテ豫備費支辨」ト記載スヘシ

○第二號樣式　（用級半紙）

、、、伺㊞	部長（內務部長ハ除ク）㊞　課長（會計課長ハ除ク）㊞　主任㊞
知事　代決	內務部長○ 會計課長○

命令

調製主任印 月　日調製○	
交付主任印 第　號○	

收入金調書

何年度經常部又ハ臨時部何々（款項目ヲ揭クヘシ）

一金何　程　何地某納

但何々（收入ノ事由ヲ詳記スヘシ）

右徵收ヲ要ス

但納期何月何日限

年　月　日

備考

一、內譯ヲ要スルモノハ別紙ニ記載添付スルモ妨ケナシ

一、年度科目ハ主掌ノ各課ニ於テ記入スルモノトス

○第三號樣式　（半紙用紙）

（此處ニ部課長及主任ノ檢印ヲ爲スコト第二號樣式ノ例ニ同シ）

一　支出請求書（支出金調書）　送金ヲ要スル例

送金ヲ要ス

（朱）何年度經常部又ハ臨時部何々（款項目ヲ揭クヘシ）

一金何　程　何地某渡

但何々（支出ヲ要スル事由ヲ詳記スヘシ）

右御渡有之度候也（右支出ヲ要ス）

年　月　日　何地某廳

知事　宛

（朱）（何月何日執行ヲ要ス○）「主任檢印次モ同シ」

（何所ヘ遞送ヲ要ス○）

備考

一、內譯ヲ要スルモノハ別紙ニ記載添付スルモ妨ケナシ

二、年度科目ハ主掌ノ各課ニ於テ記入スルモノトス

三、日ヲ期シテ執行ヲ要スルモノ又ハ請求者ノ屆書以外ノ地ニ送金ヲ要スルモノハ其ノ旨ヲ附箋スヘシ

四、仕拂命令交付ノ際領收書ヲ持參セルモノハ請求書ノ末尾ニ左ノ如ク記載押印セシメ領收書トスルコトヲ得

前書ノ金員（計算ノ複雜ナル請求書ナルトキハ金員ノ下ニ員數ヲ記載スルモノトス）正ニ領收候也

年　月　日　某　殿

注意事項（昭和二年三月十一日會計主任會議）

一、豫算科目ヲ誤ラサルノ件

從來ノ例ニ依レハ支拂豫算科目ヲ誤マルモノ又ハ疑問ヲ生シテ伺出等ノ向キナキニアラス之レ等ハ會計巡査ヲ其ノ支出科目ノ性質ヲ理解又ハ判斷セサル結果ニ外ナラス右ハ左記標準ニ基キ科目ヲ誤ラサル樣特ニ注意セラルヘシ

記

一、俸給ノ費目ヨリ支出スルモノ

一、警部補巡査ノ俸給及精勤加俸

二、警察費ニ係ル衛生技師及衛生技手俸給

例ヘハ岐阜署ノ金津病院長、多治見署ニ於ケル陶器檢査員、高山署ノ花岡治療院長ノ俸給

但衛生費ニ依ル衛生技師、衛生技手ハ本項ニ依ラス

例ヘハ岐阜、中津、多治見、高山署等ニ於ケル屠畜檢査ニ從事スルモノハ衛生費ニ依ル令達豫算ニ依リ支拂スルモノトス

二、旅費ノ費目ヨリ支出スルモノ

一、警部補巡査ノ旅費月額

二、犯罪捜査用務出張旅費

三、護送旅費

四、尾行旅費

五、證人出廷旅費

六、赴任旅費

七、家族移轉旅費

八、警察及衛生技師、技手ノ旅費（縣吏員職員其ノ他旅費規則「四四縣訓令第五」）

九、其ノ他警察用務出張旅費

三、雜給ノ費目ヨリ支出スルモノ

一、小使、給仕等ノ給料

二、會計、刑事武道指導者特別手當

三、速記巡査ノ特別手當

四、警部補巡査非番勤務手當

五、警察醫其他囑託手當

六、醫師雇入手當（變死人檢視檢案料）

七、人夫賃（書狀持人夫掃除、除雪、縄取人夫等）

八、僻陬地在勤手當

九、陸海軍召集事務ニ基キ契約シタル人夫賃及手當

一〇、其ノ他ノ理由ニ依リ諸人夫賃

（機密寫眞燒付等ノ爲メ寫眞師ヲ雇入レタル場合ノ如シ）

四、備品費ヨリ支出スルモノ

宿直員蒲團、留置人蒲團、書籍箱、椅子、机、テーブル、時計、水流、風呂桶、履物棚、井戸蓋、井戸車、釣瓶、井戸鎖、喞筒、物掛、物干竿、門標、書類挾板、活字、刷毛、卷ボールド拭、草箒、塵取、土瓶手、茶焙、算筒、長持等ノ錠及鍵等ノ如シ

五、消耗品費ヨリ支出スルモノ

薪、炭、油、茶、諸用紙、印肉、綴金、井戸繩、茶袋、火鉢用灰、雑巾、布巾、箒、塵掃、下駄、草履、囚人等ニ給スル薬餌笠草鞋ノ類

六、圖書印刷費ヨリ支出スルモノ

新聞、雑誌、諸用紙印刷費

七、通信運搬費ヨリ支出スルモノ

郵便切手、郵便爲替料、書留料、電話料、物品運送料、荷造用品、荷札ノ類

八、賄費ヨリ支出スルモノ

警部補巡査賄　同臨時賄

小使宿直賄

刑事被告人宿泊料　同途中賄

拘留人及留置人賄

行政執行法及感化法ニ依ル賄

九、被服費ヨリ支出スルモノ

下帯、手套、長靴、短靴、夏冬肌着、靴下ノ代料及警部補巡査ノ冬服、甲乙外套夏服、帽子等ノ修繕料

一〇、雑費ヨリ支出スルモノ

警察廳舍敷地借上料、物品借上料

巡査部長派出所敷地借上料

同家屋借上料

巡査派出所及駐在所敷地並家屋借上料

警部宿舍料

巡査（部長ヲ含ム）雑費月額

警部補巡査宿舍料

囚人及刑事被疑者其他護送汽車賃拘禁人留置人夜具其他雑品借上料

電燈料、井戸浚費、水道使用料、雪中救助小屋修繕費

一一、修繕費ヨリ支出スルモノ

窓掛、障子張替ニ要スル紙

地盤ヨリ築キタル竈及煙筒、爐　水流、手洗鉢臺

家屋又ハ地盤等ニ取付ケタル硝子燈、風呂桶、物干

井戸、水槽、水管

家屋等ノ瓦葺、雪留、及建物、樹木ノ保護費

廨舍周圍ノ道路又ハ溝渠等ノ改修（道路ノ雪除掃除溝渠ノ疏浚等ハ含マス）

樹木、芝草等ノ買入、植込、刈込、及石土砂代等

●縣費雑出ノ整理科目ニ關スル件

（明治四十年八月二十日決定）

從來雑出拂ニ係ル過年度ノ收入拂戻金ハ別紙ノ通同一科目ノモノト雖所屬年度ヲ異ニスルトキハ一々項ヲ新設シテ整理スルノ例ニ有之候得共斯クテハ決算及帳簿ノ整理上實ニ煩雑ニ有之且ツ歳入部ニ於ケル過年度收入ノ整理方ト權衡ヲ失スルニ付本年度以降過年度拂戻過年度追拂ノ二項ニ止メ其下ニ何々税何々年度分拂戻何費何年度分追拂等ノ目ヲ設ケテ整理スルコトニ御決定相成度候

●警察費經理ニ關スル件

（大正四年三月八日內務省發警第二五號警保局長ヨリ縣府縣長官宛）

巡査部長派出所巡査駐在所等ニ於テ公務上消費スル消耗品又ハ通信費用ハ其ノ勤務巡査ニ對シ現品若ハ月手當給與其ノ他ノ方法ヲ以テ相當支給セラレ居候義ト存候處支給額寡少ナル爲往々不足ノ場合ヲ生シ已ムヲ得ス巡査ニ於テ之ヲ自辨スル向アル哉ノ聞有之假令金額ノ多少ニ不拘此等必要ノ費用ヲ薄給ナル巡査ニ自辨セシムルハ然ルヘカラサルノミナラス報告ノ遲延其ノ他警察事務ノ敏捷ヲ缺クコトナキヲ保シ難クト存候此等ニ付テハ平素御注意相成居候コトヽ存候ヘ共一層御配慮相煩度候

第二款　國庫下渡金

●府縣警察費國庫下渡金割合ノ件

（明治二十一年八月七日勅令第六十一號）

沿革　大正七年三月勅令第二四號、八年五月第二二二號、一四年一〇月第二九四號改正

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條　（地方稅）中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ十分ノ六、大阪府ハ十分ノ三半トシ其他ノ府縣ハ六分ノ一トス但シ東京府ニ付テハ大正十二年九月ノ震災ニ基ク警察廳舍ノ復舊ニ要スル建築修繕費ヲ除キ其ノ總高一千六百萬圓ヲ超過スル額ニ對シテハ十分ノ三半トス

第二條　前條割合ノ外警察官吏竝ニ之ニ準スヘキ傭內外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條　本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

●警察費國庫下渡金算出ノ場合請願巡査費控除ノ件

（明治二十三年十月內務省警保縣治兩局長通牒警發第三一號）

今般本省訓令第三十八號ヲ以テ請願巡査配置及費用取扱方規定セラレ候處警察費國庫下渡金ヲ算出スル場合ニ於テハ右請願者ヨリ徵收シタル金額ハ警察費總高ノ內ヨリ控除スヘキ筈ニ付警察費ノ內譯國庫下渡金ノ次ニ請願巡査費目ヲ揭ケ豫算精算御取計相成ルヘキ義ト御承知有之度此段及通牒候也

●國庫下渡金算定上控除スヘキ費額ニ關スル件

（明治四十五年六月三日內務省地第四九八八號地方局長、會計課長ヨリ縣府縣長官宛）

客年十一月二十五日會第一六九九號國庫下渡金國庫補助金算定方通牒ノ件ニ付往々問合ノ向モ有之候處算定控除スヘキモノ左記ノ通御承知相成度此段及通牒候也

一、寄附金
一、國庫補給金
一、請願巡査費納付金
一、返納金　巡査給與品及貸與品規則ニ依ル返納金等
一、償還金　行政執行法遺失物法及給與品貸與品規則ニ依ル辨償金裁判所出廷旅費日當辨償金拘禁及留置人費辨償金等

●警察費國庫下渡金算定ニ關スル件

（大正十五年二月十二日內務省發警第六號通牒）

內務省警保局長ヨリ縣府縣長官宛

警察費國庫下渡金算定上控除スヘキ費目ニ付テハ明治四十五年六月三日付內務省地第四九八八號通牒ノ次第モ有之候處同算定ニ付テハ尙左記各項ニ準據シ御取扱相成度候

記

一、下渡金算定上控除スヘキ費額
（イ）恩給法第十七條ニ依リ國庫其他ノ經濟ヨリ道府縣經濟ニ收入スル分擔金中道府縣警察費ヨリ支出スル恩給又ハ扶助料ニ對スル額
（ロ）恩給法第五十九條ニ依ル道府縣警察費支拂ノ待遇職員ヨリノ納金
（ハ）府縣制第九十五條ニ依ル退隱料支給吏員ニ對シ納金ノ義務ヲ伴スル府縣ニ於テハ警察費支拂ノ俸給ヲ受クル道府縣吏員ノ該納金

二、下渡金算定上加算スヘキ費額
（イ）警察廳舍ニ對スル火災保險料
本費用ハ財產管理費ヨリ支出スル府縣アルモ費用ノ性質上之ヲ警察費ノ一部トシテ加算ノコト尙支出費目モ將來可成之ヲ警察費中ニ統一スルコト
（ロ）恩給法第十七條ニ依リ道府縣經濟ヨリ支出スル分擔金中警察費ニ屬スル分

第三款　請願巡査

●請願巡査費額

（沿革）明治二五年三月縣令第一七號、二六年三月第二一號、二八年三月第二一號、二九年三月第七號、三〇年三月第一二號、三一年一月第一六號、三二年三月第一七號、三三年一月第八號、三四年三月第一四號、三五年三月第九號、三七年三月第一一號、第一五號、三九年三月第一三號、四〇年三月第七號、四一年三月第一二號、四二年二月第一一號、四四年二月第九號、大正三年三月第一〇號、四年三月第一七號、七年三月第八號、八年三月第一五號、九年三月第二四號、一〇年三月第一八號、一一年三月第二一號、一三年三月第一九號改正

（明治二十四年一月九日　岐阜縣令第一號）

請願ニ依リ配置スル巡査費額縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通リ定ム

請願巡査費額

請願ニ依リ配置スル巡査費ハ巡査一人一ケ年左ノ額ヲ徴收ス一ケ年ニ滿タサルモノハ月割トス但特ニ巡査ノ詰所ヲ設ケントスルモノハ詰所及其備品ハ請願者ノ自辨トス又配置ノ場所ニ依リ巡査旅費ヲ要スル向ハ別ニ其額ヲ定メ徴收ス

金八百參拾八圓拾錢

内　金七百拾貳圓四拾五錢　俸給諸給　金百拾四圓六拾壹錢　廳費　金拾壹圓四錢　補助金

●銀行會社等ノ請願ニ依リ配置スル巡査充用及費用徴收方

（明治二十三年十月二十三日　内務省訓令第三十八號）

明治十四年（四月）内務省乙第廿二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡査ハ（地方税）支辨ニ屬スル巡査ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徴收シ（地方税）雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

第八章　縣有財産

●縣有財産及營造物管理規則

（明治四十三年一月十二日　岐阜縣令第一號）

（沿革）大正七年一二月縣令第三九號改正

第一條　此ノ規則ニ於テ縣有財産ト稱スルハ縣ノ所有ニ屬スル不動産、有價證券及各種ノ積立金ニ屬スル現金ヲ謂フ

第二條　縣有財産及營造物ノ管理ハ別ニ管理方法ヲ定ムルモノヲ除ク外此ノ規則ニ依ル

第三條　現金ハ縣金庫ニ保管セシムルモノノ外郵便貯金又ハ大藏省預金トシ若ハ確實ナル銀行ニ擔保ヲ徴シ預ケ入ルルモノトス

國債證券ハ國債規則ニ依リ甲種登錄ヲ受クルモノトス

前項以外ノ有價證券ハ日本銀行ニ保護預ケヲ爲スモノトス但シ株式會社瀧飛農工銀行株券ハ縣廳ニ保管スルコトヲ得

第四條　公用又ハ公共ノ用ニ供シタル不動産ハ之ヲ貸付スルコトヲ得但シ其ノ目的ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲若ハ有益事業ノ爲ニ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第五條　縣有財産ノ賣却貸付ハ競爭入札ニ付スルモノトス但シ左ノ場合ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲若ハ營利ヲ目的トセサル有益事業ノ爲賣却又ハ貸付スルコト

二　見積賣却價格金參百圓未滿ナルトキ

三　見積貸付料年額金五拾圓未滿ナルトキ

四　競爭入札ニ付スル暇ナキトキ

五　競爭入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尚豫定價格ニ達セサルトキ

六　前各號ノ外縣會ニ於テ議決シタルトキ

第六條　縣有財產ノ貸付ハ期限ヲ定メ貸付料ヲ徵收スルモノトス但シ第五條第一號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ徵收セサルコトヲ得

第七條　貸付若ハ使用セシメタル不動產ハ縣ニ於テ必要アルトキハ何時ニテモ返還セシメ又ハ使用ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人又ハ使用人ニ於テ損害アルモ賠償セサルモノトス

第八條　不動產ノ借受人又ハ使用人ハ縣ノ承諾ヲ經スシテ其ノ目的外ニ之ヲ使用シ若ハ之ヲ他人ニ轉貸又ハ使用セシムルコトヲ得

前項ニ違背シタル爲又ハ借受人使用人ノ過失故意若ハ怠慢ニ依リ損害ヲ及ホシタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

前項ノ賠償額ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第九條　不動產ノ貸付又ハ使用期限ハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　縣有財產ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ事務ヲ取扱フ官吏吏員ニ賣却又ハ貸附スルコトヲ得ス

第十一條　縣有財產管理規則縣有有價證券管理方法及縣財產ノ管理ニ關スル從來ノ規定ハ之ヲ廢止ス

●縣有財產及營造物管理規則施行手續

（明治四十三年一月十二日　岐阜縣訓令甲第一號）

沿革　明治四五年九月訓令甲第一八號改正

內務部警察部郡役所

警察署　縣立學校　測候所
縣立農事試驗場　工業試驗場　縣立種畜場
蠶業取締所　物產館　縣立農事講習所
縣立原蠶種製造所　米穀檢查所　縣立病院
娼妓病院

第一條　本手續ニ於テ廳舍ト稱スルハ郡役所、警察署、縣立學校、測候所、縣立農事試驗場、工業試驗場、縣立種畜場、蠶業取締所、物產館、縣立農事講習所、縣立原蠶種製造所、米穀檢查所、縣立病院、娼妓病院ヲ云フ

第二條　廳舍ハ直接其ノ主管ニ屬スル縣有財產及營造物ヲ管守スヘシ

第三條　廳舍及內務部警察部各課ハ直接其ノ主管ニ屬スル縣有財產並營造物ニ屬スル土地建物ノ臺帳及圖面ヲ備置クヘシ

內務部第一課ハ前項ノ外更ニ縣有財產並營造物ニ屬スル土地建物ノ臺帳及圖面ヲ備置クヘシ

第四條　臺帳及圖面ノ樣式ハ左ノ各號ニ依ル

一　臺帳

土地ノ部　第一號樣式
建物ノ部　第二號樣式ノ一及二
有價證券ノ部　第三號樣式
預金ノ部　第四號樣式
現金ノ部　第五號樣式

二　圖面

土地ノ部　第六號樣式

建物ノ部　第七號樣式

第五條　縣有財産竝營造物ニ屬スル土地建物ノ異動ハ毎年八月一日現在ニ依リ同月三十一日迄ニ總廨長ヨリ其ノ事由及臺帳ニ登載スヘキ事項竝圖面ヲ添ヘ之ヲ知事ニ報告スヘシ其ノ異動ナキトキ又同シ

內務部警察部ノ直接主管ニ屬スル縣有財産及營造物ニ屬スル土地建物ノ異動ハ前項ニ依リ主務課長ヨリ內務部第一課長ニ通知スヘシ

第六條　本手續ニ依リ始メテ調製スル臺帳及圖面ハ明治四十三年四月一日現在ニ依ル

第七條　總廨長及內務部警察部各課長ハ前條ニ依リ調製シタル臺帳及圖面ノ副本ヲ四月三十日迄ニ總廨長ハ內務部長ニ各課長ハ內務部第一課長ニ之ヲ送付スヘシ

○第一號樣式　（用紙美濃紙）

何々學校（病院）敷地（附屬地）ノ部

市町村名	大字名	字名	地番	地目	段別	地價	價格	備考
					反	円	円	明治何年何月何日何某ヨリ買入何々
合計								

備考

一　價格ハ買入價格ヲ記載スルモノトス但シ買入價格ナキモノハ臺帳登錄當時ノ時價ヲ記載スルモノトス

二　寄附ニ係ル土地ニシテ條件アルモノハ其ノ條件ヲ欄外ニ記載スヘシ

○第二號樣式ノ一　（用紙美濃紙）

何々學校（病院）建物ノ部

建物ノ名稱	番號	平家建二階建ノ區別	瓦葺板葺草葺ノ區別	二階坪數	階下坪數	合計坪數	價格	備考
				坪	坪	坪	円	明治何年何月何日臺帳
								何年何月何日何某ヨリ買入
合計								

備考

一　番號ハ建物ノ配置ニ依リ順次ニ之ヲ附スルモノトス

二　價格ハ建築シタルモノハ其ノ工費額買入タルモノハ其ノ買入價格其ノ他ノモノハ臺帳登錄當時ノ時價ヲ記載スルモノトス

三　寄附ニ係ル建物ニシテ條件アルモノハ其ノ條件ヲ欄外ニ記載スヘシ

○第二號樣式ノ二　（用紙美濃紙）

何々學校（病院）建物ノ部

建物ノ名稱	番號	箇數或ハ間數	價格	備考
			円	
合計				

備考

一　本簿ニハ門塀等ノ如キモノニシテ坪數ヲ以テ計算シ能ハサルモノヲ記載スルモノトス

二　番號、價格及備考等ノ記載方ニ付テハ本號樣式ノ一ニ同シ

三　寄附ニ係ル建物ニシテ條件アルモノハ其ノ條件ヲ欄外ニ記載スヘシ

○第三號樣式　（用紙美濃紙）

何基金（積立金）有價證券ノ部

有價證券ノ名稱	番號	額面額	利率	價格	備考
		円		円	明治何年何月何日買入
合計					

備考

一　價格ハ買入ニ係ルモノハ其ノ價格又應募シタルモノハ其ノ應募ノ價格其ノ他ハ臺帳登錄當時ニ於ケル時價ヲ記載スルモノトス

○第四號樣式　（用紙美濃紙）

何基金（積立金）預金ノ部

年月日	預ケ入先	預ケ入高	受取高	現在高
			円	円
合計				

○第五號樣式　（用紙美濃紙）

何基金（積立金）現金ノ部

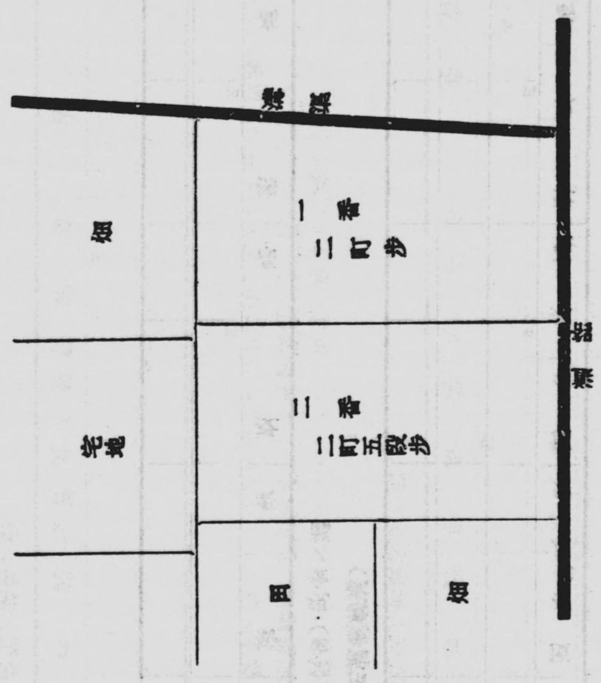
年月日	摘要	受高	拂高	現在高
		円	円	円
合計				

○第六號樣式　（用紙學校紙）

何々學校（寫眞）敷地圖

何郡市何町村大字何々字何々

凡例　（赤色）道路　　線路



備考

一　本圖ハ字畝圖ノ例ニ依リ調製シ圖面ハ北ヲ右ニ記スベシ

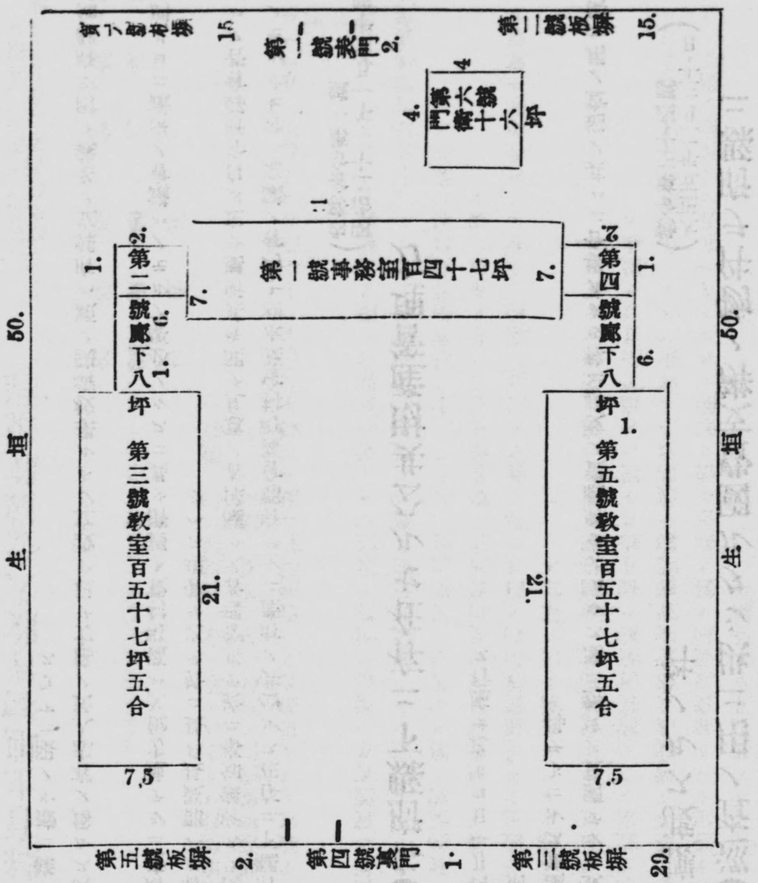
第二號雛形

第八章　縣有財產

○第七號樣式　（用紙學校紙）

何々學校（寫眞）建物ノ圖面（縮尺六百分ノ一又ハ何々）

何郡市何町村大字何々字何々



備考

一　番號ハ畳數ノ番號ヲ記載スルモノトス但シ其ノ縮尺ノ坪合ハ之ヲ記載スベシ

第二號雛形

第八章　縣有財產

●巡査ノ用ニ供シタル國費支辨ノ物件ヲ府縣ニ讓渡スルノ件

（大正五年三月三十日　勅令第三十四號）

巡査ニ要スル經費ニシテ國費ノ支辨ニ屬スルモノヲ府縣費ノ支辨ニ移シタル場合ニハ其ノ巡査ノ用ニ供シタル物件ヲ當該府縣ニ無償ニテ讓渡スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●各府縣下ニ存在セル公共財産管理方

（明治二十一年一月二十四日　内務省令第一號）

第一條　從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財産ニシテ府郡會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議決ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條　前條ノ財産ニシテ地方税又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條　公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニアラス

●縣有土地物件收入金徵收規程

（明治二十四年七月四日　内務部警察部　岐阜縣訓第二百七十三號　監獄署郡役所　市役所）

第一條　縣有ノ土地物件ヨリ生スル收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス

第二條　諸貸渡料諸産物賣拂代ノ徵收ハ左ノ各項ニ據ル

第一項　年ヲ以テ設定シタル貸渡若クハ賣拂契約ニ屬スル料金及代金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテヲ一期トシ甲年四月中ニ徵收ス

但四月以後新ニ貸渡若クハ賣却ノ契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限リ契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第二項　月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス

第三項　隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條　有期設定ニ屬スル諸貸渡料及諸産物賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項　年ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ノ四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期トナルモノハ今年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ終ルモノハ月割ヲ以テ算定ス

第二項　年ヲ以テ設定シタル賣拂契約ハ初期終期ヲ問ハス總テ全年分ヲ算定ス

第三項　月ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ハ初月終月ヲ問ハス總テ全月分ヲ徵收ス

第四條　有期設定ニ屬スル諸貸渡及諸産物賣拂契約ヲ該期限中ニ解除シタルトキ其料金及代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項　年ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ヲ縣ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反

第二項　年ヲ以テ設定シタル諸賣拂契約ヲ縣又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該年ノ收穫物件ヲ採取セシヤ否ヲ調査シ採取着手前ナレハ其年ヨリ代金ヲ免除シ對手人ノ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌年ヨリ免除ス

第三項　月ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ヲ縣ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第四項　日ヲ以テ設定シタル諸貸渡契約ヲ縣ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌日ヨリ免除ス

第五條　此規程施行前ニ設定シタル契約ニシテ此規程ニ據リカタキモノ及ヒ後來特ニ必要アリテ契約ヲ設定シタルモノハ猶其契約ニ據ルヘシ

第六條　此規程第二條ニ依リ四月中ニ徵收スヘキモノハ本年ニ限リ七月中ニ徵收スヘシ

●官舍貸渡內規

（大正十二年十二月十日　指示警第四號）

警察部長ヨリ各警察署長宛

官舍貸渡內規左ノ通定メ大正十三年一月ヨリ施行候條此旨心得ラル可シ

但明治二十二年本部指示第五十四號ハ之ヲ廢止ス

官舍貸渡內規

第一條　警察署警察分署ニ附屬スル署長官舍及附屬建物ハ此ノ內規ニ依リ貸與スルモノトス

第二條　官舍相當ノ建具疊敷物井戶道路等設備竝ニ修繕ニ要スル費用ハ縣費ヲ以テ支辨ス

第三條　岐阜大垣ノ兩警察署署長官舍應接室ニ於ケル接客上必要ナル椅子、卓、火鉢、窓掛、暖爐、涼器、點燈（玄關門燈モ含ム）等ニ要スル經費ハ豫算ニ餘裕アル場合ニ限リ縣費ヲ以テ支辨スルコトヲ得

第四條　官舍居住人ノ不注意ニ依リ官舍及其ノ附屬建物及物品等ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第九章　共濟組合

●警部補巡査消防手共濟組合ニ關スル件

（大正九年三月二十四日　勅令第四十四號）

朕警部補、巡査、消防手共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道廳、警視廳及府縣所屬ノ警部補、巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條　北海道地方費及府縣ハ各其ノ廳府縣所屬ノ組合員ノ俸給總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ每年組合ニ給與スヘシ

第三條　內務大臣ハ內務部內及廳府縣ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ內務大臣之ヲ定ム（大正九年七月十三日內務省令第二十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●警察共濟組合規則

（大正九年七月十三日　內務省令第二十一號）

沿革　大正一二年九月內務省令第三〇號、一四年一〇月第二一號改正

第一章　總　則

第一條　本組合ハ大正九年勅令第四十四號ニ基キ之ヲ組織ス

第二條　本組合ハ警察共濟組合ト稱シ內務大臣之ヲ監督ス

第三條　本組合ノ事務ハ內務次官之ヲ統轄シ道府縣內ニ於ケル組合ノ事務ハ地方長官之ヲ掌理ス

第四條　地方長官ハ所部ノ廳府縣職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第二章　組合員

第五條　本令施行ノ日ニ於テ現ニ警部補、巡査又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手タル者ハ其ノ日ヨリ、本令施行後警部補巡査又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ任命セラレ若ハ復職ヲ命セラレタル者ハ任命又ハ復職ノ日ヨリ組合員タルモノトス

第六條　組合員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ組合ヲ脫退ス

一　死亡シタルトキ

二　其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官、失職シタルトキ

三　休職トナリタルトキ

四　警部補、巡査又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手以外ノ官職ニ轉シタルトキ

第七條　組合員及組合員タリシ者ハ本令ノ規程ニ依リ救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　掛金

第八條　組合員ハ掛金トシテ毎月月俸ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ月俸受領ノ時支拂フモノトス

月俸ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金額ヲ改定ス

第四章　救濟

第九條　救濟金ハ左ノ五種トス

一　醫療金

二　死亡給與金

三　療疾給與金

四　罹災給與金

五　脫退給與金

第十條　救濟金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各種ノ救濟金ヲ併給ス

第十一條　醫療金ハ組合員醫療ヲ受ケタルトキ之ニ要シタル費用ノ十分ノ八ニ相當スル金額ヲ給與スルモノトス但シ明治三十四年勅令第百四十九號巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令第一條ノ規定ニ該當スル場合ハ之ヲ給與セス

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ醫療金ヲ給與セス

一　義眼、義手、義足、眼鏡、齒科技工其ノ他之ニ類スルモノニ要シタル費用

二　溫泉、鑛泉ノ入浴、轉地療養費、滋養品費其ノ他之ニ類スルモノニ要シタル費用

醫療ニ要シタル費用ニシテ必要ノ限度ヲ超ユルト認ムルトキハ醫療金ヲ減額スルコトアルヘシ

第十二條　死亡給與金ハ左ノ區別ニ依リ給與スルモノトス

一　組合員死亡シタルトキ月俸六月分ニ相當スル金額

二　組合員ノ配遇者死亡シタルトキ又ハ組合員ト同一ノ家ニ在リ組合員ニ於テ現ニ扶養スル祖父母、父母若ハ子死亡シタルトキ月俸二分ノ一ニ相當スル金額

第十三條　療疾給與金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ月俸六月分ニ相當スル金額ヲ給與スルモノトス

一　組合員ノ傷痍又ハ疾病自用ヲ辨シ得サル程度ノ重症ニ趨キ治癒ノ見込ナク退職シタルトキ

二　組合員傷痍又ハ疾病ニ因リ一眼以上ヲ盲シ若ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ終身職務ニ堪ヘス退職シタルトキ

三　組合員病毒傳播ノ危險アル肺結核若ハ喉頭結核又ハ癩病ニ因リ退職シタルトキ

第十四條　罹災給與金ハ組合員カ非常災害ニ罹リタルトキ月俸二月分ニ相當スル金額以內ヲ給與スルモノトス但シ非常災

者ノ狀況著シキ場合ニ於テハ特ニ月俸三月分ニ相當スル金額迄ヲ給スルコトヲ得

第十五條　脫退給與金ハ組合員脫退シタルトキ左ノ區別ニ依リ給與スルモノトス

一　引續キ組合員タリシコト五年未滿ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ四

二　引續キ組合員タリシコト五年以上十年未滿ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ六

三　引續キ組合員タリシコト十年以上ノ者ニハ掛金總額ノ十分ノ八

前項ノ組合員タリシ年數ハ組合員トナリタル月ヨリ之ヲ起算シ脫退ノ月ヲ以テ終ル

第六條第三號ノ規定ニ該當シ脫退シタル組合員ニシテ復職シタル者ニ關スル脫退給與金ノ算定ニ付テハ前後ノ組合員タリシ期間ヲ通算シ引續キ組合員タリシモノト看做シ其ノ掛金總額ハ最近復職後ノ掛金總額ニ依ル但シ休職ノ月ニ於テ復職シタル者ノ後ノ組合員タリシ期間ハ復職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第十六條　第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依ル救濟金ハ給與ノ事由發生ノ時ニ於ケル掛金ノ標準タル月俸ニ依リ之ヲ算定ス

第十七條　救濟金給與ノ時未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ヨリ之ヲ減ス

第十八條　救濟金給與ノ事由發生シタルトキハ組合員又ハ其ノ戶主、家族若ハ代理人ヨリ直ニ其ノ旨ヲ所屬地方長官ニ申告スヘシ

第十九條　救濟金給與ノ事由發生シタル場合ニ於テ組合員又ハ其ノ戶主、家族若ハ代理人ハ地方長官ノ命シタル職員又ハ醫師ノ臨檢若ハ診察ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　組合員死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ組合員ヲ死亡前特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一　配過者

第二　直系尊屬

第三　直系尊屬

第四　戶主

第五　兄弟姉妹

前項第二號及第五號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號、第三號及第五號ニ該當スル者ハ組合員死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス但シ組合員ノ死亡後出生シタル嫡出子ハ組合員死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ救濟金ヲ受領スル者ナキトキ又ハ不明ナルトキハ組合ハ受領者ヲ指定シ救濟金ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第二十二條　組合員懲戒處分ニ因リ其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官、失職シタルトキハ救濟金ヲ給與セス

第二十三條　組合員又ハ其ノ戶主、家族若ハ代理人第十九條ノ規定ニ違背シタルトキ又ハ救濟金給與ノ事由發生ノ日ヨリ一年內ニ請求ヲ爲ササルトキハ救濟金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第二十四條　故意ニ組合員又ハ救濟金受領ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲訴追セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判確定ニ至ル迄救濟金ノ支給ヲ停止シ有罪ノ判決確定シタルトキハ之ヲ給與セス

第二十五條　組合ハ組合員ニ對シ直接醫療ヲ爲シ又ハ他ノ施設ニ醫療ヲ委囑スルコトヲ得

第二十六條　組合ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ組合員ノ共濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第五章　審査會

第二十七條　救濟金ノ給與ニ關シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ異議アルトキハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ地方長官ヲ經テ內務大臣ニ其ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條　內務大臣前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ審査會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ決定ヲ爲シ地方長官ヲ經テ審査請求者ニ

之ヲ通知ス

內務大臣前項ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命ス

第二十九條　審査會ハ議長一名委員十名以內ヲ以テ之ヲ組織ス議長及委員ハ內務省高等官中ヨリ內務大臣之ヲ命ス

第三十條　審査會ノ決議ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條　第二十八條ノ規定ニ依ル內務大臣ノ決定ハ組合ヲ羈束ス

第六章　會計

第三十二條　組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十三條　組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

用途ヲ指定シタル寄附ハ其ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第三十四條　組合ノ財產ハ大藏省預金、郵便貯金若ハ確實ナル銀行ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ノ應募、買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルノ外組合財產ノ管理方法ハ內務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第三十五條　組合ハ救濟金ノ支拂ニ關シ必要アルトキハ借入金ヲ爲スコトヲ得

借入金額、借入ノ方法利息ノ定率及償還方法ハ內務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第三十六條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●警察共濟組合事務取扱規程

（大正九年九月十一日內務省訓令第十七號）

道府縣

警察共濟組合事務取扱規程左ノ通定ム

第一章　通　則

第一條　本規程ニ於テ所屬長ト稱スルハ道廳府縣警察部長、警視廳官房主事、警視廳各部長、警視廳警察練習所長、警視廳消防練習所長、警察署長、警察分署長、消防署長及消防分署長ヲ謂フ

組合員警察分署長タル場合ハ其ノ所屬長ハ地方長官別ニ之ヲ定ム

第二條　地方長官ハ其ノ廳府縣所屬ノ組合員每ニ別記樣式第一號ニ依ル組合員原票ニ所定ノ事項ヲ記入シ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ整理スヘシ

地方長官ハ其ノ廳府縣所屬ノ組合員組合ヲ脫退シタルトキハ其ノ組合員原票ヲ內務次官ニ送付シ他ノ廳府縣ノ所屬ニ轉シタルトキハ當該地方長官ニ之ヲ轉送スヘシ

第三條　地方長官ハ別紙樣式第二號及第三號ニ依ル報告書ニ所定ノ事項ヲ記入シ第二號ニ依ル報告書ニ付テハ三月分ヲ、第三號ニ依ル報告書ニ付テハ一月分ヲ各其ノ翌月二十日迄ニ內務次官ニ送付スヘシ

第四條　內務次官ハ每年度組合ノ事業成績及收支決算ヲ組合員ニ公表スヘシ

第五條　地方長官必要ト認ムルトキハ本規程ノ施行ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第二章　救　濟

第六條　救濟金ノ給與ヲ受クムトスル者ハ別記樣式第四號ニ依ル請求書ニ左ノ書類ヲ添付シ所屬長ヲ經テ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　醫療金ニ付テハ病名竝藥價（投藥種別、日數ヲ明記スルコト）、手術料、處置料、入院料（等級、日數ヲ日記スルコト）又ハ看護料等ヲ明記シタル領收書

二　死亡給與金ニ付テハ死亡診斷書若ハ死體檢案書又ハ其ノ寫及正當請求者タルコトヲ證明スルニ足ル戸籍謄本又ハ戸籍抄本

三　療疾給與金ニ付テハ傷痍又ハ疾病ノ原因・經過及機能障害ノ程度ヲ詳記シタル醫師ノ診斷書

四　罹災給與金ニ付テハ罹災ノ狀況及被害ノ程度ヲ詳記シタル調書

前項第一號ノ領收書ニシテ病院又ハ醫師ニ非サル者ノ發シタルモノニ付テハ醫療上ノ指示ニ基ク旨ノ醫師ノ證明アルコトヲ要ス

救濟金ノ併給ヲ受クムトスル場合ニ於テハ同時ニ各其ノ請求書ヲ提出スヘシ

第七條　地方長官療疾給與金ノ請求書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ內務次官ニ送付スヘシ

內務次官前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル決定ヲ爲シ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第八條　地方長官醫療金、死亡給與金、罹災給與金及脫退給與金ノ請求書ヲ受ケタルトキハ給與ニ關スル決定ヲ爲スヘシ

第九條　地方長官第七條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ給與スヘキモノニ付テハ別記樣式第五號ニ依ル給與書ヲ請求者ニ交付シ其ノ給與セサルモノニ付テハ其ノ旨請求者ニ通知スヘシ

第十條　救濟金ノ給與ヲ受クムトスル者特別ノ事由アルトキハ滯メ受領地ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨救濟金請求書ニ明記スルコトヲ要ス

第三章　會計

第十一條　組合員ノ掛金ハ地方長官其ノ廳府縣所屬ノ組合員タル職員ノ月俸仕拂ノ時之ヲ徵收ス

組合員所屬廳府縣ヲ轉シタルトキハ其ノ月ノ掛金ハ其ノ前ニ屬スル廳府縣ノ地方長官之ヲ徵收ス

第十二條　北海道地方費及府縣ノ給與金ハ毎月各其ノ廳府縣所屬ノ組合員總人員ノ月俸額ニ依リ算定シ翌月十日迄ニ之ヲ組合ニ交付ス

組合員ノ月俸ニ異動ヲ生シタルトキハ前項ノ算定ニ付テハ其ノ月ニ限リ異動ヲ生セサルモノト看做ス

第十三條　前條第一項ノ給與金ハ組合員所屬廳府縣ヲ轉シタル場合ニアリテハ其ノ月ノ掛金ヲ徵收シタル地方長官ノ管轄スル北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第十四條　地方長官ハ組合員ノ掛金竝北海道地方費及府縣ノ給與金ノ前月分ノ三分ノ一ヲ毎月二十日迄ニ內務次官ニ送付シ其ノ三分ノ二ハ救濟金ノ給與ニ充ツル爲準備金トシテ之ヲ管理スヘシ

地方長官ハ前項ノ準備金ニ不足ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ內務次官ニ回金ヲ請求スヘシ

第十五條　地方長官ハ組合員ノ掛金徵收ニ際シ過誤ヲ生シタルトキハ次ノ月俸仕拂ノ時之ヲ整理スヘシ

第十六條　救濟金ハ地方長官ニ於テ之ヲ仕拂フ

第十七條　掛金ノ徵收及救濟金ノ仕拂ニ關シ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第十八條　地方長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ醫療金及罹災給與金ニ限リ所屬長ノ證明ニ依リ概算前渡ヲ爲スコトヲ得

第十九條　地方長官收入又ハ仕拂ヲ了シタルトキハ證憑書類ニ處理ノ番號及年月日ヲ記入スヘシ

第二十條　地方長官ハ仕拂ヲ了シタル救濟金ノ證憑書類ノ前月分ヲ毎月二十日迄ニ內務次官ニ送付スヘシ

第二十一條　地方長官ハ別記樣式第六號乃至第十號ニ依ル明細簿及　記樣式第十一號ニ依ル出納簿ヲ備ヘ整理スヘシ

第二十二條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之レヲ行フ

附　則

第二十三條　本規程ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式第一號

組合員原票

所屬府縣名		官職名		氏名	
勤務所				生年月日	

年度	掛金 四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計	累計	月俸 加入及月俸異動年月日	金額
大正九年																円

同 裏 面

仕拂年月日	救濟金種目	救濟金額	救濟金受領者氏名	備考	番號
日		円			

(注意)

1. 所屬廳、府縣、官職及勤務所ニ異動ヲ生シタル時ハ赤線ニテ抹消シ新ニ記入スルコト
2. 月俸欄ニハ加入ノ年、月、日及加入當時ノ月俸額ヲ記入シ昇給其ノ他月俸異動ノ都度順次其ノ下ノ欄ニ記入スルコト
3. 掛金ノ徴收額ヲ誤リタル場合ハ正當掛金ヲ記入シ其ノ上ニ正當掛金額ト實際徴收シタル金額トノ差額ヲ過ハ黒、不足ハ赤ニテ記入スルコト
4. 掛金額ノ過、不足ヲ整理シタル月ニ於テハ其ノ月ノ掛金額ヲ記入シ其ノ上ニ追徴ハ黒返戻ハ赤ニテ其ノ金額ヲ記入スルコト
5. 掛金ヲ徴收セサル月ニ於テハ空欄トシ翌月徴收シタル時之レヲ記入スルコト
6. 脫退事由ニハ死亡、懲戒處分、疾病及自己便宜等ニ依ル免職、休職、失官、失職等ヲ可成詳細ニ記入スルコト
7. 裏面ノ各欄ニハ救濟金ヲ給與シタル都度記入スルコト
8. 備考欄ニハ規則第二十條但書及第二十一條ノ規程ニ依ル給與ノ如キ例外ノ場合ヲ記入スルコト
9. 番號ノ欄ニハ證憑書類ト同一番號ヲ記入スルコト(以下別様式各號ノ番號ニ付亦同シ)

別記様式第二號

自 年 月分 至 警察共濟組合加入、脫退、異動及現在員報告書

廳府縣名

官職名	繰越人員	新加入人員	脫退人員				異動人員		現在人員	備考
			死亡	懲戒處分又ハ失職失官	其他	計	他ヨリ轉屬	他ヘ轉屬		
警部補										
巡査										
消防手										
計										

(注意)

1. 本報告書ハ二通ヲ作製シ一通ハ廳府縣ニ保存スルコト
2. 異動人員ノ欄ニハ廳府縣間ノ所屬ノ異動ヲ記入スルコト
3. 繰越人員ノ欄ニハ前三箇月ノ末日現在人員ヲ新加入人員、脫退人員、異動人員ノ各欄ニハ前三箇月間ノ事實ヲ、現在人員ノ欄ニハ前三箇月ノ末日現在人員ヲ各記入スルコト
4. 備考欄ニハ他ヨリ轉屬、他ヘ轉屬ノ場合ニ於ケル各其ノ先ノ廳府縣名ヲ記入スルコト
5. 巡査ヨリ警部補ニ昇進シ又ハ巡査ヨリ消防手ニ轉職シタルカ如キ場合ハ現在人員欄ノミ加除シ備考欄ニ其ノ旨ヲ記入スルコト

別記様式第三號

年　月分警察共濟組合收支報告書

廳府縣名

收入			支出		
種目	金額		種目	金額	
繰越金	圓		送金		
掛金			醫療金		
給與金			死亡給與金		
利子			療疾給與金		
回金			罹災給與金		
其他			脫退給與金		
			概算前渡金		
計			計		

(注意)

1. 本報告書ハ二通ヲ作製シ一通ハ廳府縣ニ保存スルコト
2. 欄外ニ收支ノ殘額ヲ記載スルコト
3. 殘額ハ月末現在金ト一致スルモノナルコト

別記様式第四號

警察共濟組合救濟金請求書

一金何圓也

警察共濟組合規則第　條ニ依リ請求候也

年　月　日

地方長官宛

請求者(本人以外ノ場合ハ續柄ノ)　氏名　㊞

生年月日

官職名

所屬廳府縣名及勤務所名

氏名

(注意)

醫療金ノ場合ハ金額ハ醫療ニ要シタル費用ノ十分ノ八ヲ記入シ罹災給與金ノ場合ハ金額ヲ記入セサルコト

醫療給與金何々

別記様式第五號

第　號

醫療費共濟組合救濟金給與書

一　醫療費　何々給與金　金何圓也

醫療費共濟組合規則第　條ノ規定ニ依リ頭書ノ通リ給與ス

年　月　日

何々縣府縣警部補巡査消防手（請求者　　）

地方長官　何　某　㊞

（注　意）

請求者氏名ハ本人以外ノ者ノ場合ノミ記入スルコト

別記様式第六號

醫療明細簿

記入年月日	官職名	氏名	給與金額	醫療ニ要シタル費用							病名	受領日數	續柄者ノ氏名及救濟金受領	備考	番號
				診察料	藥價	手術料	處置料	入院料	看護料	計					
			円												

（注　意）

1. 本簿ニハ給與ノ都度記入スルコト（以下各明細簿ニ付亦同シ）
2. 給與金額ノ欄ニハ醫療ニ要シタル金額ノ十分ノ八ヲ記入スルコト
3. 醫療ニ要シタル費用ノ欄ニハ組合員カ醫師其他ノ者ニ支拂ヒタル金額ヲ記入スルコト
4. 救濟金受領者氏名及續柄ノ欄ニハ組合員以外ノ受領者タル場合ノミ記入スルコト（以下各明細簿ニ付亦亦シ）
5. 備考欄ニハ規則第二十條但書ノ規定ニ依ル給與ノ如キ例外ノ場合ヲ記入スルコト（以下各明細簿ニ付亦同シ）
6. 月計ヲ爲スコト

別記様式第七號

死亡明細簿

記入年月日	官職名	氏名	給與金額	死亡年月日	死亡ノ原因	救金受領者ノ氏名及續柄	備考	番號
			圓					

（注意）

死亡ノ原因欄ニハ死因ヨル病名、自殺、他殺等ヲ記入スルコト

別記様式第八號

癈疾明細簿

記入年月日	官職名	氏名	給與金額	退職年月日	癈疾ノ狀態	救濟金受領者ノ氏名及續柄	備考	番號
			圓					

（注意）

癈疾ノ狀態欄ニハ機能障害ノ程度及之カ原因タル傷痍疾病ノ別ヲ明記シ疾病ノ場合ハ其ノ病名ヲ記入スルコト

別記樣式第九號

罹災明細簿

記入年月日	官職名	氏名	給與金額	罹災ノ年月日	罹災ノ原因	救濟金受領者ノ氏名及續柄	備考	番號
			圓					

（注意）

罹災ノ原因欄ニハ罹災ノ原因、例ヘハ火災、震災、海嘯等ト記入スルコト

別記樣式第十號

脫退明細簿

記入年月日	官職名	氏名	給與金額	掛金總額	勤續年月數	脫退年月日	脫退ノ事由	救濟金受領者ノ氏名及續柄	備考	番號
			圓	圓						

（注意）

脫退ノ事由欄ニハ死亡、懲戒處分、疾病及自己便宜等ニ因ル免職、休職、失官、失職等ヲ可成詳細ニ記入スルコト

別記様式第十一號

出　納　簿

年月日	摘要	收入	支出	殘額

（注意）

1. 本簿ハ毎日取扱フ出納ヲ記入スルコトヲ得此ノ場合ニハ摘要欄ニ何某外何名ト記入スルコト
2. 同一種目ノ出納ハ一括シテ其ノ計ヲ記入スルコト
3. 前日ノ殘額ハ翌日ノ收入欄ニ記入シ摘要欄ニ繰越金ト記入スルコト
4. 日計及月計ヲ爲スコト

●警察共濟組合事務取扱細則

（大正九年十二月一日　警察部警察署
岐阜縣訓令甲第七十號）

第一條　本則ニ於テ規則ト稱スルハ警察共濟組合規則、取扱規程ト稱スルハ警察共濟組合事務取扱規程ヲ謂フ
組合員カ警察分署長タル場合ニハ所屬長ハ其ノ分署ノ屬スル警察署長トス

第二條　組合員ノ掛金ハ左ノ方法ニ依リ算定徵收スルモノトス
一、月俸ニハ功勞加俸精勤加俸ヲ加ヘテ算定スルコト
二、月ノ中途又ハ末日ニ加入シ若ハ月ノ中途ニ脫退スル者ト雖總テ俸給辭令面ノ額ニ依リ算定スルコト
三、俸給支給日以後ニ加入シタル者ノ掛金ハ其ノ翌月ノ俸給支給日ニ於テ其ノ月分ト併テ徵收スルコト

第三條　所屬長ハ毎月俸給支給日ニ組合員ヨリ所定ノ掛金ヲ徵シ第一號樣式ノ報告書二通ヲ作製シ一通ハ徵收シタル掛金ニ添付シ翌月二日迄ニ送付スヘシ

第四條　規則第十八條ニ依リ申告スル場合ハ左ノ各號ニ依リ所屬長ヲ經由スヘシ
一、傷痍疾病ニ付テハ其ノ月日傷病名療養場所看護人雇入ノ有無
二、非常災害ニ付テハ其ノ月日及狀況程度ノ概要
三、死亡ニ付テハ其ノ月日原因等ノ事實

第五條　所屬長ハ前條ノ申告書ヲ受ケタルトキハ直ニ事實ヲ調査シテ進達スヘシ

第六條　醫療金請求書ニ添付スヘキ藥價手術料處置料入院料等ノ領收書ハ年月日病名種別數量又ハ日數單價金額（入院料ニ付テハ等級）看護料ノ領收書ニハ被雇月日日數單價金額等ヲ明記シタルモノタルヘシ

第七條　所屬長ハ取扱規程第六條ニ依リ請求書ヲ受ケタルトキハ、脫退給與金ヲ除キ）左ノ各號ニ依リ調査ヲ爲シ意見ヲ付シ速ニ送付スヘシ

一、醫療金ニ付テハ取扱規程第六條第一項第一號及前條ニ適合シタルヤ否竝必要ノ限度ヲ超エサルモノニアラサルヤ否又取扱規程第六條第二項ニ依ル場合ニ在テハ其ノ證明書ノ有無

二、死亡給與金ニ付テハ取扱規程第六條第一項第二號所定ノ書類ノ完否及規則第二十條ニ依ル正當順位ナルヤ否若シ請求者カ同條但書ニ依ルモノナルトキハ其ノ意思表示ノ正當ナルモノナルコトヲ確認スルニ足ルヘキ證據書類竝死者トノ關係及規則第二十四條ニ抵觸スルモノニ非サルヤ否

三、療疾給與金ニ付テハ規則第十三條各號ニ該當スル事實ノ確否及取扱規程第六條第一項第三號所定ノ書類ノ完否

四、組合員ノ配偶者祖父母父母子等ノ死亡給與金ニ付テハ規則第十二條第二號ニ違フコトナキヤ否

五、水火震災山崩レ地辷リ風雪害又ハ火藥其ノ他ノ危險物爆發等ニ基ク罹災給與金ニ付テハ組合員カ住スル家屋ノ所有者氏名及組合員ハ下宿又ハ間借ナルヤ否家屋全部カ流失燒失滅失倒壞等ノ際ハ其ノ損害額家屋ノ一部又ハ家具ノ損害ノ場合竝床上浸水ノ場合ハ其ノ程度ト損害額

第八條　所屬長ハ規則第二十條所定ノ救濟金ヲ受領スル者ナキトキ又ハ不明ナルトキト雖尚左ノ各號ニ依リ調査報告スヘシ

一、婚姻ノ屆出ナキモ夫婦ノ實アル內緣ノ妻ノ有無若シアラハ其ノ住所氏名

二、前號以外ノ者カ死者ノ爲ニ葬祭ヲ營ミタルモノナキヤ否若シアラハ其ノ住所氏名死者トノ關係竝葬祭ニ要シタル金額

第九條　所屬長ハ規則第二十七條ニ依リ組合員ヨリ異議ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ附シ速ニ送付スヘシ

第十條　所屬長ハ組合ニ對シ寄附ノ申込ヲ受ケタルトキハ之ニ意見ヲ附シテ報告スヘシ

第十一條　警察共濟組合ニ關スル事務ハ他ノ事務ト區別シ往復文書及封皮ニハ總テ「共」ノ字ヲ冠スヘシ

附則

第十二條　本則ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

○樣式第一號

大正　年　月　日　署　名

何月分警察共濟組合掛金送付書

異動月日	加入及	月俸一加俸一計	給	掛金摘要	官職氏名
	圓	圓	圓		
計					何名

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件

（大正九年九月十一日內務省發衛第二二七號內務省衛生局長ヨリ廳府縣長官宛）

本年三月勅令第四十四號及七月省令第二十一號ニ基キ九月十一日警察共濟組合事務取扱規程訓令相成候處尙之カ事務執行ニ付テハ左記ノ通御了知相成度

記

一、地方長官ノ掌理スル組合ノ事務ハ總テ廳府縣ノ職員ヲシテ執行セシメラレ度旣ニ其ノ職員ノ俸給ヲ支辨スル經濟ヨリ支出セラレタキコト

二、地方廳ニ於ケル組合ノ事務執行ニ要スル印刷費筆紙墨文具通信費等ノ支出方ニ付テハ本事務ヲ警察官吏ヲシテ掌理セシムル場合ハ警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ官吏ヲシテ掌理セシムル場合ハ國費ヲ以テ支辨セラレタキコト

三、組合員原票ハ本省ヨリ之ヲ配布シ帳簿等ハ總テ地方廳ニ於テ作製スルコト

四、組合員原票ハ一人一枚ヲ限リ配布スルモノナルヲ以テ地方長官ニ於テ更ニ必要ト認ムル場合ハ適宜原票ノ複寫ヲ作ルコト

五、規則第十一條ノ醫療ノ範圍ニハ賣藥ヲ含マサルヲ以テ醫師ノ在住ナク且交通不便ノ土地ニ對シテハ規則第二十六條ニ基ク施設トシテ適當ナル方法ヲ案シ內務次官ニ進達スルコト

六、醫師ヲ招聘シタル場合ノ車馬賃ハ往診療中ニ含マレタルモノハ格別車馬賃ト明記シタルモノハ之ヲ給與セサルコト

七、罹災給與金ハ水害、海嘯、火災、震災、山崩レ、地辷、風害、雪害又ハ火藥其ノ他ノ危險物爆發ノ場合左ノ標準ニ依リ給與スルコト但シ給與ノ額ハ損害ノ額ヲ超ユルコトヲ得サルコト

一、家屋ノ流失全燒倒壞又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ二箇月以內

二、家屋ノ床上浸水一部ノ倒壞破損又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ一ケ月半以內

三、家屋又ハ家具ノ損害ニシテ前二項ノ程度ニ達セサルトキハ一ケ月以內

八、前項ノ外特ニ救濟ノ必要アリト認ムル場合ハ罹災ノ狀況被害ノ程度及給與見込額ヲ具シ內務次官ニ協議スルコト

九、規則第二十條但書ノ組合ノ意思表示ハ書面ニ依ルト否トヲ問ハス確證アルヲ要スルコト

十、規則第二十一條ノ規定ニ依ル受領者ノ指定及救濟金ノ給與ハ地方長官ニ於テ之ヲ執行スルコト其ノ指定スヘキ者及給與スヘキ金額ハ左ノ各號ニ依ルコト

一、婚姻ノ屆出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラルル者ニ對シテハ救濟金ノ全部ヲ與フルコト但シ他ニ葬祭ヲ營ミタル者アルトキハ死亡給與金ノ三分ノ二ヲ限度トシテ之ニ要シタル實費ヲ控除スルコト

二、前號但書ノ場合ニ於テ控除シタル金額ハ死亡者ノ爲メ葬祭ヲ營ミタル者ニ對シテ給與スルコト

十一、規定第五條ニ依リ細則ヲ定メタルトキハ速ニ內務次官ニ報告スルコト

十二、月俸ニハ功勞加俸及精勤加俸ヲ含ムコト

十三、月俸ハ總テ支給額ニアラスシテ辭令面ニ於ケル月俸額ヲ意味スルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入又ハ脫退スル者アルモ掛金ハ辭令面ノ百分ノ二ヲ徵收スルコト

十四、月ノ末日ニ加入シタル組合員ノ其ノ日ノ掛金ハ次ノ月俸仕拂ノ時徵收スルコト

十五、規程第十二條ニ依ル算定ハ前月中ノ　合員總人員ノ辭令面ニ於ケル月俸額ニ依ルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入若ハ脫退シ又ハ中途加入シ其ノ月ノ中途ニ於テ脫退スル如キ者モ總テ組合員總人員中ニ加フルコト

十六、規程第十四條ニ依リ內務次官ニ送金スルトキハ之カ明細書ヲ添付スルコト

十七、規程第十四條ニ依ル準備金ハ組合員ノ救濟金ニ充ツル外支出スルヲ得サルコト

十八、本會ニ報告スル組合ノ書類ニ記入スル番號ニハ總テ「共」ノ文字ヲ加フルコト

（大正九年十月十八日社發乙第八二號社會局長通牒ニ依リ訂正）

●警察共濟組合規則ニ關スル件

（大正十年五月十日內務省鳥社會第九號內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛移牒）

鳥取縣知事照會（大正九年十二月十日共發警第六〇號）

警察共濟組合規則第二十二條ニハ組合員懲戒處分ニ因リ其ノ官ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官失職シタルトキハ救濟金ヲ給與セストアリテ救濟金ノ種類ヲ明記セラレサルモ右ハ

一、脫退給與金ノミヲ意味スルヤ

二、脫退給與金ノ外免官又ハ失職ノ事由ト因果關係ヲ有スルモノ例ヘハ自己ノ家ニ放火シタルニ因ル罹災給與金泥醉シテ

他人ト爭鬪シ爲ニ負傷シタル等官吏ノ體面ヲ汚損スルモノアリテ懲戒免官セラレタル場合ニ於ケル醫療金ノ如キモ包含スルヤ

三、又免官失官以前已ニ救濟金ヲ受領スヘキ權利ヲ生シ居ルモノハ後免官又ハ失官ニ依リ變更セラレサルモノト解スヘキヤノ點

取扱上疑義ヲ生シ居候條御省ノ御意見承知致度此段及照會候也

內務省社會局長回答（大正十年五月鳥取縣知事宛　鳥社會第九號）

標記ノ件ニ關シ客年十二月十日附共發警第六〇號ヲ以テ御照會有之候處左記ノ通リ御了知相成度

記

一、脫退給與金ノミナラス規則第九條ノ各種救濟金ヲ總テ包含ス

二、懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因ル免官失官失職ノ關係ヲ有スル事實ヲ原因トスル救濟金ハ勿論其免官失官失職以前ニ給與事實ヲ發生シタルモノト雖未タ給與ヲ了セサルニ於テハ等シク救濟金ノ總テヲ給與セサルノ法意ナリトス

●警察共濟組合死亡給與金請求ニ關スル件

警視總監照會（大正十二年十一月二十四日　警共第八七號）

（大正十三年一月四日內務省一二視警第二六號　警保局長ヨリ神奈川縣知事宛移牒）

警察共濟組合事務取扱規程第六條ニ依リ死亡給與金請求ニ付テハ請求書ニ死亡診斷書若ハ死體檢案書又ハ其ノ間ヲ添付スヘキ規定ニ候處今回ノ災變ニ因リ當廳所屬組合員及家族ニ死者アリタルモノニシテ死體檢案者ヲ得サル爲救濟金ヲ請求スル能ハサル者多數有之候條之等特種ノ事情アル場合ハ檢視調書ノ謄本又ハ所屬長ノ證明書ヲ以テ之ニ替ヘ請求シ得ルコトニ御認定相成候樣致シ度此段及稟申候

警保局長回答（大正十三年一月四日　內務省一二視警第二六號）

標記ノ件ニ關シ十一月二十四日警共第八七號ヲ以テ稟申ノ趣了承右ハ大正十二年九月一日ノ震災及之ニ伴フ災害ノ爲メ組合員或ハ其ノ家族死亡シ救濟金請求ノ場合ハ御申越ノ趣旨ニ依リ御取扱相成差支無之候條御了知相成度

●警察共濟組合癈疾給與金請求ニ關スル件

（大正九年十二月七日內務省發社會第四六號　內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛）

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癈疾給與金ノ請求ヲ受ケタルトキハ規程第七條ニ依リ送付セラルヘキ成規ニ有之候處之ヲ從來ノ事例ニ徵スルニ添付書類ノ內容往々明確ヲ缺クノ嫌有之爲ニ給與金決定上支障不尠候ニ付爾今左記事項取調添付相成候樣致度

記

一、救濟事由發生ノ時ニ於ケル月俸額（功勞加俸、精勤加俸等ヲ含ム）

二、規則第十三條第三號ノ場合ニ於テハ警察醫ヲシテ當該患者ヲ檢診セシメ其ノ證明書ヲ添付スルコト

三、前項證明書中ニハ病毒傳播ノ危險アリヤ否ヤヲ特ニ附記スルコト

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癈疾給與金請求書送付方ニ關シテハ嘗テ夫々通牒置候處右給與金決定上必要有之候ニ付

（大正十年九月十九日內務省發社會第一三七號　內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛）

爾今該請求書送付ノ際ハ左記關係書類添付相成候樣致度
追而右請求ハ救濟事由發生後數箇月ヲ經過スル向有之給與上遺憾ニ被存候條相當御留意相成度爲念申添候

記

一、本人ノ退職願書
二、本人退職當時ノ醫師ノ診斷書
三、退職決定書類（退職月日共）
四、現俸給（退職當時ノ本俸並加俸）增俸年月日竝增俸額

●警察共濟組合ニ關スル檢診證記載方ノ件

（大正十年三月四日內務省發社會第二四號內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛）

警察共濟組合員ニシテ規則第十三條第三號中肺結核及喉頭結核ニ該當スル場合ニ於テハ客年十二月七日內務省發社會第四六號通牒ノ趣旨ニ基キ警察醫檢診ノ結果夫々具申有之候處之ヲ其ノ後ノ事例ニ徵スルニ該檢診證ノ內容往々明確ヲ缺キ審査上支障不尠候條爾今左記各項ニ準シ記載相成候樣致度

記

一、病名
二、既往症
三、現在症（打診、聽診、脈搏、呼吸、體溫、咯痰檢査成績等詳細）
四、經過
五、診斷（他人ニ對シ病毒傳播ノ有無等）
六、豫後

●警察共濟組合警察醫檢診方ニ關スル件

（大正十一年二月十七日內務省一〇視社會第七二號內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛）

警察共濟組合癈疾給與金請求書送付ニ際シ警察醫ノ檢診證添付ヲ要スル旨豫通牒置候處組合脫退後ニ於ケル本人ノ居所ニシテ警察醫ノ設置ナク從ツテ其ノ在勤所ヨリ甚シキ遠隔ノ地點ニ在リ爲ニ檢診上非常ナル支障ヲ生スル場合ニ限リ本人所在ノ開業醫ヲシテ所轄警察署長立會ノ下ニ檢診ヲ了セシメ該檢診證ヲ添付シ差支無之候條爾今右樣御了知相成度
追テ右開業醫ノ檢診證添付ノ場合ハ其ノ事由詳記相成候樣致度申添候

●警察共濟組合事務ニ關スル件

（大正十三年四月九日內務省發警第二〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒）

大阪府知事照會（大正十三年三月四日阪共視第四號）

規則第十三條第三號ニ依ル癈疾給與金ノ請求ニ關シテハ大正十年三月內務省發社會第二四號御通牒ニ依リ警察醫ノ檢診書ヲ添付致スコトヽ相成居候處警察醫ハ大正十年十一月十一日勅令第四三五號ヲ以テ廢セラレ之ニ代ル衛生技師ヲ設置セラレ候然ルニ大正十一年二月內務省一〇視社會第七二號御通牒ニ依レハ尙警察醫ナル文字ノ御使用有之自然警察囑託醫ニテモ差支無之モノト思料セラレ當府ニ於テハ從來當該警察囑託醫ヲシテ檢診セシメ居候處聊カ疑處相生シ候條何分ノ御指示相成樣致度此段及照會候也

警保局長回答（大正十三年四月十一日　内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

三月四日附阪共視第四號ヲ以テ警察共濟組合事務ニ關スル件御照會相成候處右ハ御來示ノ通リ警察醫ハ衛生技師技手ト相成候ニ付テハ爾今醫師タル衛生技師技手ノ檢診書ヲ添付スルヲ原則トシ若シ衛生技術官ノ在ラサルカ爲之ニ依ルヲ得サル場合ニ於テハ警察囑託醫ニ依ラルルモ已ムヲ得サル處ト御了知相成度右經向ノ上申進候

●警察共濟組合災害給與金ニ關スル件

（大正十二年九月十九日内務省發警第一九ノ三號　内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

今般内務省令第三十號ヲ以テ警察共濟組合規則ヲ改正シ災害給與金ハ從來二月分以内ナリシヲ災害ノ狀況ニ依リテハ特ニ三月分以内ヲ給シ得ルノ途ヲ講セラレ候處右ハ大體左記ノ標準ニ依リ給與スヘキ處ニ有之候條右ニ依リ御取計相成度候追テ流失、倒壞等モ右ニ準シ御取扱相成度申添候

記

	家族アル者		家族ナキ者	
	勤務中ノモノ	勤務中ニ在ラサル者	勤務中ノ者	勤務中ニ在ラサル者
死者アリ　家財全燒	三ヶ月分	二ヶ月半分		
死者アリ　家財半燒	二ヶ月半分	二ヶ月分	一ヶ月半分	一ヶ月分
死者アリ　家財半燒	二ヶ月分	一ヶ月分	一ヶ月半分	一ヶ月分

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件

（大正十二年三月十七日内務省發警第一四號　内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

醫療金支給ニ關シテハ組合員打撲、捻挫、脱臼　接骨ニ關シテハ接骨營業者及柔道ノ教授ヲ爲ス者ノ柔道整復術ニ依リ治療ヲ爲シ其ノ費用ヲ請求スル場合ニ於テ從來ノ取扱ハ費用領收書ニ醫療上ノ指示ニ基ク旨ノ醫師ノ證明アルコトヲ要シ候處右ハ自分醫師ノ證明ノ有無ニ拘ラス之ヲ醫療ト認メ規則第十一條ニ依リ給與相成樣致度

●警察共濟組合醫療金ニ關スル件

（大正十三年五月一日警保局警發乙第六五七號　警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒）

廣島縣知事照會（大正十三年二月十四日　共第三一六號）

脚氣病ニ罹リ客年八月十五日ヨリ九月二十日マテ三十七日間甲醫師ノ醫療ヲ受ケ已ニ醫療金ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ同年八月十五日ヨリ四月二十六日マテノ間同一疾病ノ爲乙醫師ニ就キ醫療ヲ受ケタル趣ヲ以テ更ニ之ニ對スル醫療金ノ交付ヲ請求セル者有之候處右ハ甲醫師ニテハ効果渉々シカラサル樣自覺シ同時ニ乙醫師ノ醫療ヲ受ケタルモノナル趣ニ有之候條乙醫師ノ醫療ニ就テハ規則第十一條第三項ニ依リ給與スヘカラサルモノト思料候處何分ノ御指示相成度照會候也

警保局長回答（大正十三年五月一日警保局警發乙第六五七號）

二月十四日附共第三一六號ヲ以テ内務次官警察共濟組合醫療ニ關シ御照會相成候處右ハ規則第十一條第三項ニ據リ支給スヘキ限リニ無之候條御了知相成度候

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件

（大正十一年十二月廿六日警保局警發乙第四三八號）

大阪府知事照會（大正十一年十一月十八日共第五〇九號）

大正九年九月十一日訓令第一七號第六條第一項中ニ所謂入院料トハ如何ナルモノヲ包含スルモノナリヤ當府管内公私立病院ニ於ケル入院料ノ内容區々ニ渡リ例ヘハ濱地病院ニアリテハ病室、寢具、什具ノミヲ入院料トナシ食費藥價等ハ入院料中ニ包含セシメ居ラス松岡病院ニアリテハ病室、食費、藥價、寢具、什器ヲ悉ク入院料中ニ包含セシメ居レリ各病院ノ入院料規則ニヨリテ入院料ヲ支給スルモノトセハ醫療費支給上公平ヲ缺クノ嫌有之是レカ取扱上統一ヲ期シ度候條入院料ノ内容御指示相成度右及照會候也

警保局長回答（大正十一年十二月廿六日警保局警發乙第四三八號）

標記ノ件ニ關シ十一月十八日共第五〇九號ヲ以テ御照會有之候處右ハ病室、寢具、什具、患者ノ食費及藥價ハ之ヲ入院料ニ包含セシメ可然義ト被認候條御了知相成度

●警察共濟組合收支計算ニ關スル件

（大正十年一月三十一日社發乙第一七號内務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛）

警察共濟組合收支計算ニ關シテハ夫々御督勵中ノ事ト被存候處之ヲ從來之實例ニ徵スルニ其ノ取扱區々ニ亘リ調査上支障不尠候條爾今左記ニ依リ御取運相成度

追テ右報告書ノ提出ハ甚シク遲延之向有之集計上差支候ニ付期限勵行相成候樣致度申添候

記

一、給與金並掛金ハ當月分ヲ翌月廿日前ニ必ス收入ヲ了シ少クトモ廿日迄ニ其ノ三分ノ一ヲ送金シ當月分收支報告書ノ當該欄ニ區分記載シテ提出スルコト但シ月俸支給定日以後月末迄ニ加入シタル組合員ニ就テハ此限ニアラス

二、前項但書ノ未收額ハ當月分收支報告書ノ欄外ニ附記シ其ノ額收入濟ノ後ニ於テハ翌月分收支報告書中ニ區分揭記シテ報告スルコト

三、收支報告書樣式第三號注意中「三」ハ之ヲ削除ス

四、收支報告書中ニ送金ニ關スル内譯ヲ記載シ送金明細書ヲ省略スル向アルモ右ハ別途ニ提出スルコト

五、概算前渡ヲ爲シタルトキハ其ノ種目ヲ分記スルコト

六、送金後其ノ額ニ異動ヲ生シタルトキハ收支報告書訂正ノ手續ヲ取運フコト

七、送金明細書ハ爾今別紙樣式ニ據リ提出スヘキコト

大正　年ノ　月分警察共濟組合送金明細書

大正　年　月　日

送金高	摘要
184 150	掛金五百五拾貳圓四拾六錢ノ三分ノ一

184 000	給與金五百五拾貳圓ノ三分ノ一
010	何月分掛金ノ際何々ノ爲不足額
300	前月分掛金九拾貳錢ノ三分ノ一額（前月分送金後繰收分）
368 460	何々銀行特別當座口振込又ハ何々銀行振出小切手
計	

備考　計算上殘未濟ヲ生シタルトキハ送金讀額ニ於テ切捨テスシテ內訓每ニ切捨ツルモノトス

●警察共濟組合收支報告補正ニ關スル件

（大正十年十一月十四日社發乙第四〇三號）
內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛

警察共濟組合事務取扱規程第十四條ニ依ル送金後異動ノ場合ニ於ケル收支報告書補正方ニ關シテハ本年一月三十一日附社發乙第一七號ヲ以テ通牒置候處既往ノ實例ニ徵スルニ之レカ手續取運不相成向有之整理上差支不鬱候ニ就テハ右手續精々御勵行相成候樣致度

●警察共濟組合收支決算ニ關スル件

（大正十一年四月一日內務省發社會第二四號）
內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛

警察共濟組合收支計算ニ關シテハ夫々御精勵中之事ト被存候處右決算書別記樣式ニヨリ取調每年度終了後一ヶ月以內ニ本省ニ到着スル樣提出相成度

追テ右計算ニ關シテハ漏テ報告ニ係ル收支計算參照ノ上異動ニ關スル附記相成候樣致度申添候

大正何年度　警察共濟組合收支決算書　廳府縣

月別 ＼ 事項	收入 掛金	收入 給與金	收入 利子	收入 計	支出 送金 金額	支出 送金 人員	支出 醫療 金額	支出 醫療 人員	支出 死亡 金額	支出 死亡 人員	支出 療疾 金額	支出 療疾 人員	支出 罹災 金額	支出 罹災 人員	支出 脫退 金額	支出 脫退 人員	支出 計	差引 殘額
四月																		
五月																		
六月																		
七月																		
八月																		
九月																		
十月																		
十一月																		
十二月																		
一月																		

二月												
三月												
計												

附　準備金保管狀況竝預金利率

注　意

1. 本樣式中各月ノ掛金及給與金ハ其月分トシテ當然徵收シタル額（決算額）ヲ掲記スルコト
2. 年度末決算期ニ際シ翌年度ニ繰越收入アリタルモノト雖前年度所屬ノ收入（掛金及給與金）ハ科目每ニ整理ノ上其ノ精算額ヲ記入スルコト
3. 概算前渡後精算濟ノモノハ各科目別ニ（醫療、罹災）整理記載シ尙年度末ニ於テ現ニ概算前渡ニ係ルモノト雖年度末打切リ精算ノ上記入スルコト
4. 「支出」欄中ノ「計」ハ金額ノミノ合計ヲ掲記スルコト
5. 本表中當テ報告濟ノモノト異動ヲ生シタル場合「附記」ハ可成詳細記載スルコト
6. 準備金保管狀況ニ就テハ年度末現在ノ狀況ヲ左記ニ區分記載スルコト

記

一、現　金

二、銀行預金

1. 定期預金
2. 通知預金
3. 特別當座預金
4. 小口當座預金

三、郵便貯金

●警察共濟組合證憑書類送付ニ關スル件

（大正十年六月二十三日社發乙第一六九號內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛）

警察共濟組合救濟金ノ支拂ヲ了シタル證憑書類ハ規程第二十條ニ基キ夫々送付有之候處右調査上必要ニ候條爾今該書類送付ノ際ハ左記事項表記ノ上添付候樣致度

記

書類番號	給與種目	給與金額	官職別員數				
計							

注　意

一、書類番號ニハ證憑書類番號（自何號至何號）ヲ記載スルコト

二、給與種目毎ニ其ノ事實ヲ區分記載スルコト
三、官職別（警部補、巡査、消防手）ニ集計記載スルコト
四、死亡給與金ハ組合員家族（妻、祖父母、子）毎ニ區分掲載スルコト

●警察共濟組合財産管理並送金方法ニ關スル件

（大正十年一月七日内務省九發會第五二三號）
（官房會計課長ヨリ廳府縣長官宛）

警察共濟組合財産ノ管理並送金方ニ關シテハ夫々適當ナル方法ヲ講シ遺憾ナキヲ期セラレ候義ト存候得共本省ニ於テ管理スル資金ノ預入ニ付テハ左記六銀行ヲ確實ト認メ預金取引ヲ開始スルコトニ定メラレ而シテ該資金ノ送金ニ付テハ郵便振替貯金又ハ預金口振込ニ據ルヲ最モ安全有利ナル方法ト存候依テ二者ヲ對比スルニ郵便振替貯金ハ振替ニ依ル拂出及現金ノ拂渡ノ爲ニスル拂出ノ際各相當料金ヲ徴收セラレ且預金利率低薄ニシテ振替ニ日時ヲ要ス然ルニ預金口振込ハ其ノ副報告書（用紙ハ私製葉書）ニ相當郵便切手ヲ貼用スルノミニテ足リ預金利率ハ郵便振替貯金ニ比シ常ニ高位ニ在リ且受信方前者ヨリ迅速ナリ上述ノ如ク預金口振込ハ郵便振替貯金ニ比シ經費利率及速達ノ點ニ於テ優レルヲ以テ本省ニ於テハ預金口振込ノ方法ニ依リ送金可致候條貴縣御取引ノ銀行名ハ預金種別及預金者名義御回示相成度候尚貴縣ヨリ本省ヘ送金ノ場合ニ於テモ可成右ニ依リ取扱ハレ度就テハ預金口振込方法ハ梅嘩別紙ノ通ニ有之候條御承知相成度

追而預金口振込ニ依ラレサル場合ニシテ郵便振替貯金口座ヲ有スル向ハ本省取引銀行ノ振替貯金口座ヘ直接御振替相成ルヲ便宜ト存候但此場合ハ其ノ都度本省ヘ其ノ旨御通知相成度又從前通小切手ヲ使用サルヽ向ハ今後記名式線引トセラレ度且會計課長山田準次郎ヲ受取人ニ指定相成度

（別　紙）

所在地	銀行名	預金種別	預金者名義
日本橋區平松町	住友銀行東京支店（振替貯金口座東京七番）	通知預金	内務省 山田準次郎
日本橋駿河町	三井銀行東京三三番）	小口當座預金	
同區小船町三丁目	安田銀行東京二三九番）	通知預金	
麹町區永樂町二丁目（東京海上ビルヂンヂ内）	三菱銀行丸ノ内支店（東京一五四〇五番）	特別當座預金	
右同所	十五銀行丸ノ内支店（東京六九五〇番）	特別當座預金	
日本橋區檜物町	川崎銀行（東京二一三五番）	通知預金	

第十章　雜

●鐵道乘車用公務證券及證明書規程

（大正二年七月二日岐阜縣訓令甲第四十二號）

警察部警察署

沿革　大八年四月縣訓甲第一六號改正

第一條　公務ヲ以テ往復スル警察官吏鐵道乘車賃ノ半減ヲ得ムトスル場合ハ本規程ニ依リ鐵道乘車用公務證券及執務上特ニ制服ヲ著用セサル場合ハ證明書ヲ携帶スヘキモノトス

第二條　公務證券ハ甲乙二種トシ甲種證券ハ警察官吏公務上乘車スルトキ乙種證券ハ囚徒押送ノ爲囚徒及監守官吏乘車スルトキ使用スヘシ

第三條　公務證券及證明書ハ左記樣式ニ依リ發行スヘシ

第四條　公務證券及證明書ノ發行擔任者ハ警察部ハ警務課長警察署署長トス

第五條　發行擔任者ハ常ニ嚴密ナル注意ヲ以テ其ノ濫用ヲ戒メ左記樣式ノ帳簿ヲ備ヘ公務證券及證明書ノ出納ヲ明ニスヘシ

第六條　制服ヲ著用セス公務出張ノ場合交付スヘキ證明書ハ其ノ都度之ヲ交付シ用務終了後直ニ返納セシムヘシ

第七條　公務證券及證明書ハ他人ニ讓渡シ又ハ私事ニ使用スルコトヲ禁ス

第八條　汽車中ニ於ケル犯罪捜査ノ爲乘用スル勤合證ノ取扱ハ本規程ヲ準用ス

附則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ施行ス

一、鐵道乘車用公務證券樣式

（甲）甲種證券樣式　用紙　鳥ノ子又ハ洋紙厚紙
寸法　縦二寸五分　横三寸

第　號

發行擔任官㊞

（甲種）

表

制印

公務證券　自　縣
至　縣

大正　年　月　日發行

裏

廳府縣名㊞

乘車人
等官氏　名
年齢

注意

裏　面

一此證券ハ警察官吏ノ公務ヲ以テ乘車スルモノナルコトヲ證スル爲發行スルモノトス

一此證券ハ發行擔任者ニ於テ必要事項ヲ記入シテ附與スルモノトス但シ記入ノ文字ハ鉛筆ヲ用ウヘカラス

一此證券ハ一人一葉ニ限ルモノトス

一此證券ハ他人ニ讓渡スルコトヲ禁ス

一此證券ニ記入ノ文字ヲ抹消改書セシトキハ發行擔任者ノ消印アルニアラサレハ無效トス

一此證券不用トナリタルトキハ發行擔任者ニ返付スルヲ要ス

一此證券ヲ紛失シタルトキハ券面番號其ノ他必要ノ事項ヲ速ニ發行擔任者ニ屆出ルヲ要ス

一此證券有效期間ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス

（乙）乙種證券樣式　用紙及寸法ハ甲種證券ニ同シ

第　號

發行擔任官㊞

（乙種）

表

制印

公務證券　自　縣
至　縣

大正　年　月　日發行

裏

廳府縣名㊞

乘車人
監守官吏官氏名
三等
四徒　人

注意

裏　面

一此證券ハ囚徒押送ノ爲乘車スル場合ニ限リ發行スルモノトス

一此證券ハ發行擔任者ニ於テ必要ノ事項ヲ記入シテ附與スルモノトス但シ記入ノ文字ハ鉛筆ヲ用ウヘカラス

一此證券ハ他人ニ讓渡スルコトヲ禁ス

一此證券ニ記入ノ文字ヲ抹消改書セシトキハ發行擔任者ノ消印アルニアラサレハ無效トス

一此證券不用トナリタルトキハ發行擔任者ニ返付スルヲ要ス

一此證券ヲ紛失シタルトキハ券面番號其ノ他必要ノ事項ヲ速ニ發行擔任者ニ屆出ルヲ要ス

一此證券ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス

二　公務鐵道乘車證明書樣式　用紙　鳥ノ子又ハ洋紙厚紙　寸法　縱三寸　横二寸五分

表

第　號

發行擔任官㊞

乘車人　官　氏　名

年　齢

割印

公務鐵道乘車ノ證

大正　年　月　日發行

廳府縣名㊞

裏面

注意

一此證票ハ警察官吏制服ヲ著用セス公務乘車スルノ證トシテ發行スルモノトス

一此證票ニハ發行擔任官ニ於テ發行ノ際番號等所要ノ事項ヲ記入スヘシ但シ鉛筆ニテ記入スヘカラス

一此證票ニ記入ノ文字ヲ抹殺改竄シタルトキハ發行擔任官ノ認印アルニ非サレハ無效トス

一此證票不用トナリタルトキハ發行擔任官ニ返付スルモノトス

一此證票ヲ紛失シタルトキハ本票番號及發行ノ年月日ヲ具シ速ニ發行擔任官ニ届出ヘシ

鐵道乘車用公務證券及證明書出納簿

發行擔任官印	受入及交付月日	種類	數量	旅行用務	發著驛名	出發月日 歸任月日	交付者氏名	領收印
	㊞ 何月何日	甲種證券 乙種證券 證明書	何枚	何々破害事件捜査ノ爲何縣何地ニ出張	自何驛 至何驛	何月何日 何月何日	官名何某	㊞

●警察官吏鐵道通券發行ノ件

（大正二年四月二十五日內務省警第一八五三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

警察官吏等公務鐵道乘用公務證券及證明書樣式別紙訓令ノ通改定相成候處右ハ鐵道院ノ求メニ應シタル義ニハ有之候得共私設鐵道乘用ノ場合ニモ供用差支ナキコトニ有之此旨鐵道院ヨリ私設會社ニ對シ通告セラレ候條御了知相成度候

（別紙）

內務省訓第二一〇號（大正二年四月二十五日警察官吏等鐵道乘車用公務證券及證明書樣式左記ノ通改定シ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式ハ大正二年岐阜訓令甲第四十二號ト同一ニ付略ス）

甲種證券ハ警察官吏公務上乘車用トシ之ヲ發行シ乙種證券ハ囚人及刑事被告人護送用トシテ之ヲ發行スルモノトス

前行ノ證券ハ乘車前賃金ノ半額ト共ニ鐵道掛員ニ差出シ之ト引換ニ乘車切符ヲ受取ルモノトス

鐵道乘車證明書ハ警察官吏公務乘車ノ際制服ヲ着用セサルトキ警察官吏タルノ證トシテ鐵道掛員ノ請ニ應シ提示スル

●警察官吏乘車等級制限ニ付鐵道院ト協定ノ件

（明治四十二年六月十日内務省閣甲第八七號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

今回警察官吏乘車等級制限ノ件左記ノ通リ鐵道院ト協定候條可然御措置相成度候尤モ警察官吏出張ノ場合ニ於テハ秘密ヲ要スル爲等級制限ニ由リ難キコト可有之又其ノ秘密ノ用務ヲ帶ヒタルモノナルコトモ明示シ難キコトモ可有之被存候處鐵道院ニ於テハ固ヨリ用務ノ内容ニ立入ルモノニ無之ニ付該ル場合ニ於テハ公務通券ノ發行擔當者ニ於テ優等級ノ車室ニ乘車セシムル旨該券面ニ記載シ認印上交付スルニ於テハ此ノ證明ニ依リ指定ノ優等級車ニ乘車差支無之次第ニ有之又協定等級ヨリ劣等級ニ乘車スルハ各自ノ隨意ニ候條此又御承知ノ上可然御示達相成樣致度依命此段及通牒候也

左記

一　警視以上　一等室、二等室　二　警部　二等室、三等室

三　巡査　三等室

追テ右制限ハ本月十五日ヨリ實行ノ筈ニ有之候條御了知相成度此段申添候也

●警部補ノ乘車等級ニ關スル件

（明治四十三年三月二十三日内務省警第一一七二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

警察官吏乘車等級制限ノ件客年六月十日付閣甲第八七號ノ内ヲ以テ及通牒置候處今回新設セラレタル警部補ハ警部ト同樣二等室三等室ニ乘車スヘキコトニ御示達相成度此段通牒候也

●警察官吏公務證券ニ關スル件

（大正十二年四月七日警第二五〇一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察官吏ニ交付スル公務證券ニ關シ別紙ノ通リ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付爾後必要事項ノ如キハ必ス發行擔任官ニ於テ記入ノ上交付ノ義御勵行相成度爲念此旨及通牒候也

（大正十二年四月四日内務省鐵警第一號）

警保局長ヨリ知事宛

警察官吏ニ交付スル公務證券ハ乘車區間等級及發行月日等必要事項ヲ發行擔任官ニ於テ記入ノ上交付スヘキ義ハ大正八年三月三十一日内務省訓第一八九號訓令證券樣式裏面注意第二項ニ記載有之次第ニ候得共之カ記入ヲ爲サスシテ交付スル向往々有之斯ノ如キハ運賃割引ノ精神ヨリ見テ甚タ遺憾ニ不堪殊ニ無記入ノ公務證券ヲ出札掛ニ提出シテ其ノ記入方ヲ委託スルカ如キハ其ノ間自然思慮ノ强固ナラサル係員ヲシテ不識ノ間ニ不正ヲ行ハシムルノ動機ヲ與フルコトトモ相成遂ニハ前途ヲ誤ル者ヲモ生スヘク甚タ遺憾ニ不堪候今其ノ一例ヲ擧クレハ福井縣三國警察署ニ於テ大正十一年四月二十三日以降同年十月中沈同署員ニ交付セル四十五枚ノ公務證券ハ必要事項ヲ記入セスシテ交付シ使用ニ方リテ其ノ記入ヲ出札係ニ委託シタル爲乘車區間ヲ遠距離ノモノト爲シ其ノ差額賃金ヲ自己ノ用ニ費消シ公文書僞造變造行使業務上横領等ノ罪名ノ下ニ訴追ヲ受ケ居候趣ヲ以テ交付ノ際ニ於ケル注意方鐵道次官ヨリ當省次官宛申越ノ次第モ有之候ニ付テハ爾後必要事項ノ如キハ必ス發行擔任官ニ於テ記入ノ上交付ノ義御勵行相成級上ノ如キ弊害ヲ生セシメサル樣篤ト御注意相成度候

●運賃後拂乘車船證發行ニ關スル件

（大正十四年五月五日警第二八八一號通牒）

警察部長ヨリ警察部各課長各警察署長宛

本件ニ付今般鐵道省ヨリ別紙ノ通取扱手續及之レカ發行方並乘車心得ヲ定メ五月一日ヨリ實施可致旨通牒有之候條御承知相成度此段及通牒候也

（別　紙）

運賃後拂乘車船證發行並乘車心得

一　後拂乘車證（一冊貳拾枚綴）ハ左記區分ニ依リ鐵道局（經理課）ヘ請求シ配付ヲ受クルコト但シ警察署ニ配付スルモノハ府縣警察部ニ於テ取纏メ請求シ其ノ配付署名並配付數ヲ鐵道局經理課ヘ通知スルコト

北海道一圓　札幌鐵道局

青森、岩手、宮城、福島、山形、秋田、新潟各縣　仙臺局

靜岡、愛知、岐阜、山梨、長野、富山、石川、福井各縣　名古屋鐵道局

東京、栃木、茨城、埼玉、群馬、千葉、神奈川各府縣　東京局

大阪、京都、兵庫、岡山、奈良、三重、滋賀、鳥取、和歌山、島根各府縣及四國各縣　神戸局

廣島縣山口縣及九州各縣　門司局

二　後拂乘車證ヲ使用シウル場合ヲ「犯罪人ノ追捕、要視察人、要注意人ノ尾行視察及其ノ他特命事項ニ關シ旅行スルニ當リ乘車船券ヲ購入スルノ遑ナキ場合」ト限定スルコト

三　本證發行擔任者ヲ左ノ如ク限定スルコト

警視廳警務部警務課長

道、府、縣警察部警務課長、警察署長、警察分署長

四　本證ヲ發行スルトキハ發行者ニ於テ乘車人所屬官署名、職氏名年齢及發行年月日ヲ記入シ且發行者欄ニハ左ノ如ク記入シ職印ヲ押捺スルコト

「縣警察部警務課長　官氏　名印」

（警察署、同分署長ニ於テ發行スルトキハ其ノ所在地名ヲ肩書スルコト）

五　本證ノ發著驛名、車船等級、列車種類（普通、急行、特別急行列車ノ別）ハ乘車人ニ於テ之ヲ記入シ發著驛名ニ付テハ當該驛係員ノ、車船等級及列車種類ニ付テハ車掌ノ證明ヲ受クルコト但シ短距離ノ乘車ニシテ車掌ノ證明ヲ受クル遑ナキトキハ之ヲ省略スルモ妨ナシ

六　一旅行中ニ於テ上級又ハ下級ノ車船室ヘ乘換ヲ爲シ（山手線又ハ下關門司間ノ如ク上級室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級室ニ乘換ユル場合ハ此ノ限ニアラス）又ハ普通列車ヨリ急行列車ニ乘換ヲ爲ス毎ニ新ニ本證ヲ提出シ驛係員又ハ車掌ノ證明ヲ受クルコト

七　本證ヲ以テ途中驛ニ下車シ再ヒ他ノ列車ニ乘繼コトヲ得ス故ニ下車ヲ爲シタルトキハ其ノ下車驛ヲ著驛トシテ本證ヲ提出シ乘繼ヲ爲サントスルトキハ新ニ別葉ヲ使用スルコト

八　本證ニ依リ乘車スルモノハ所屬長發行ノ身分證明書（官職氏名及年齢ヲ記載シタルモノ）又ハ警察手帖ヲ携帶シ鐵道係員ノ要求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スルコト

九　左ノ場合ニ於テハ無札旅客トシテ一般規定ニ依リ運賃料金及割增金ヲ即時ニ本人ヨリ收受スルコト

一　後拂乘車證ニ發驛ノ證明ヲ受ケスシテ乘車シタルトキ

二　後拂乘車證ニ記載シタル等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ

三　身分證明書、警察手帳ノ呈示ヲ拒ミタルトキ

一〇　發行者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ發行シタル本證ノ報告用片ヲ取纏メ確實ナル方法ヲ以テ配付ヲ受ケタル鐵道局經理課ヘ送付スルコト

一　接線ニハ抹線ヲ畫シ其報告片ト共ニ送付スルコト

一一　運賃料金ハ毎一ケ月分ヲ鐵道局經理課ニ於テ計算ノ上本證發行者ヘ請求スヘキニ付發行者ニ於テ取纏メ納入ノ手續ヲ爲スコト

甲片乙片ニ記入シタル發著驛名其他一致セサルトキハ甲片ニ記入シタルモノニ依リ運賃料金ヲ決定スルコト（本扱ニ依ル場合ハ普通運賃ニ依ルコト）

一二　本證ヲ保管中ニ於テ紛失シタルトキハ保管者其ノ責ニ任スルコト前項紛失ノ場合ニ於テハ遲滯ナク鐵道局（經理課）ヘ通知スルコト

以　上

逸第　號

普察官吏及少年保護司運賃後拂乘車船取扱手續

大正十四年　月　日　鐵道大臣　伯爵　石　貫

第一條　普察官吏及少年保護司其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テ乘車船券急行列車券ヲ請求スルノ遑ナキトキハ左記樣式ノ後拂乘車證ヲ以テ乘車船セシムルコトヲ得ルモノトス

第二條　後拂乘車證ヲ以テ乘車船スル者ニ對シテハ必要ニ應シ所屬長發行ノ官職氏名及年齡記載シタル身分證明書又ハ警察手帳ノ呈示ヲ求ムルモノトス

第三條　後拂乘車證ヲ以テ乘車船スル者ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ取扱ヲ爲スモノトス

一　發驛ニ於テハ後拂乘車證發驛證印欄ニ驛長職印又ハ途中下車印ヲ押捺シテ乘車船セシムルコト

二　著驛（著驛名欄ニ記載シタル著驛ナルト否トニ拘ラス現ニ下車シタル驛）ニ於テハ本證ヲ收受シテ出場セシメ著驛證印欄ニ驛長職員又ハ途中下車印ヲ押捺シ且著驛名欄ニ記載シタル著驛以外ノ驛ニ下車シタル場合ニ於テハ著驛名ヲ相當訂正スルコト

三　乘務員ニ於テ本證ノ檢査ヲ爲シタルトキ又ハ乘車人ヨリ車船室等級及列車種類（普通列車、急行列車、特別急行列車ノ別）ノ證明ヲ求メタル場合ニ於テハ證印欄ニ檢札鋏又ハ認印ヲ以テ證明スルコト

第四條　左ノ場合ニ於テハ各別箇ノ乘車船トシテ別葉ノ後拂乘車證ヲ使用セシムルモノトス

一　乘車船等級ヲ變更スルトキ但シ上級車船室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級ノ車船室ニ乘車船スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　種類ノ異ナル列車ニ乘繼又ハ乘換ヲ爲ストキ

前項ノ場合ニ於テ發著驛名ノ證明ヲ當該驛ニ於テ爲ス遑ナキトキハ車掌之ヲ爲シ（認印ヲ押捺）原後拂乘車證ハ最寄驛長ニ引繼クモノトス

第五條　左ノ場合ニ於テハ無札旅客トシテ一般規程ニ依リ取扱ヲ爲スモノトス

一　後拂乘車證ニ發驛名ノ證明ヲ受ケスシテ乘車船シタルトキ

二　後拂乘車證ニ記載シタル等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ

三　身分證明書又ハ警察手帳ノ呈示ヲ拒ミタルトキ

丙分八寸一

（後拂乘車證（發行者控））

No	乘車人 氏名	職 年齡	當　年　月　日	等	年
發著驛及列車種類	自　驛	至　驛	列車		

表

（用告報）乙　分五寸一

（用車乘）甲　分七寸三

No	後拂乘車證（一ケ月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ鐵道局經理課ヘ送付スルコト）
乘車人所屬官署名 職氏名 年齡	當　年　年　月　日
出發月日及等級	年　月　日　等
發著驛及列車種類	自　驛至　驛　列車
No	後拂乘車證
乘車人所屬官署名。職氏名年齡	當　年
出發	年　月　日
發驛名	發驛證印
著驛名	著驛證印
車船室等級	等
列車種類	列車

大正　年　月　日發行者

（裏面記載事項注意セラレタシ）

裏

甲

注意

一　本證ハ記名人カ其職分ヲ行フニ付乘車船券、急行列車券ヲ購求スルノ遑ナク鐵道係員ノ承諾ヲ得テ乘車船スル場合ニ限リ乘車船券急行列車券ニ之ヲ代用スルモノトス

二　乘車人所屬官署名職氏名年齡及發行年月日ハ發行者ニ於テ出發年月日發著驛名車船室等級（壹、貳、參ノ數字ヲ用フ）列車種類（普通、急行、特急ノ別）ハ乘車船者ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

三　乘車船者ハ所屬長發行ノ身分證明書又ハ警察手帳ヲ携帶シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スヘキモノトス

四　乘車船者ハ發驛ノ承諾ヲ得タル證トシテ本證ニ證印ヲ求メ下車船（途中下車ノ場合ヲ含ム）ノ際當該驛ニ之ヲ交付スヘキモノトス

五　一旅行中ニ於テ乘車船室ノ等級又ハ列車ノ種類ヲ異ニスルトキ若ハ途中驛ニ下車シ再ヒ乘繼ヲ爲ストキハ別葉ヲ使用スヘキモノトス

但シ上級車船室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級ノ車船室ニ乘車船スル場合ハ此ノ限ニアラス

六　左ノ場合ニ於テハ本證ニ關係ナク一般ノ無札者ト同シク規定ノ運賃料金及割增金ヲ乘車船者ニ於テ支拂フヘキモノトス

一　發驛ノ證印ヲ受クシテ乘車船シタルトキ

二　本證記載ノ等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ

三　身分證明書又ハ警察手帳ノ呈示ヲ拒ミタルトキ

七　乘車船者ハ以上ノ外一般ノ規則ヲ遵守スヘキモノトス

乙

丙

著色（表　淡綠色　裏　白色）

番號一號ヨリ千號ニ至リ循環ス

●駐在所詰員消耗品代及家賃ハ各自辨ノ件

（明治二十六年二月警察部指示第五四號）

今回巡査駐在所詰員ハ駐在所雜費月額支給可相成ニ付テハ消耗品代及家賃ハ各自ヨリ支辨致スヘク且家屋借上ニ付從來官署トノ契約ハ此際解約スヘシ

●諸物品購入諸雇人使用其他債務ヲ生スヘキ場合及不用品公賣等ノ決裁錄書式

（明治二十八年四月指示第二三號）

警察署

諸物品購入諸雇人使用其他債務ヲ生スヘキ場合及不用品公賣等ハ豫テ左ノ書式ニ據リ決裁錄ヲ設ケ置キ其都度記入セシメ法裁スヘシ但本件實施ノ日ヨリ物品購入回議錄ヲ廢止ス

物品ノ部

物品名	數	代價	決裁印	事由	主任印	年月日
ホヤ	三本	六錢	署長印	毀損ニ付何ノ誰ヨリ買入	印	何年何月何日
火鉢	一個	拾錢	同	破損ニ付何ノ誰方ニテ修繕	同	同
炭	二十五貫目	壹圓	同	拂底ニ付何ノ誰ヨリ買入	同	同
郵便切手	何錢何枚	何圓	同	拂底ニ付何ノ誰ヨリ買入	同	同
何々	同	同	同	同	同	同

諸雇ノ部

名稱	日給及賃錢	決裁印	事由	主任印	年月日
醫何ノ誰	一日何拾錢 貳拾五錢	署長印	何々檢案ニ付半日雇入	印	何年何月何日
臨時小使何ノ誰	一日何錢	同	小使缺勤ニ付何日間雇入	同	同
運搬夫何ノ誰	一里ニ付何錢	同	何所何里書狀持雇入	同	同
何	何	同	同	同	同

一 右ノ外囚人及刑事被告人賄又ハ乘車賃ハ勿論警察署ニアリテハ修繕費並不用物品公賣ニ付此決裁錄ニ記入シ決裁ヲ請クヘシ

一 用紙罫半紙表書ハ決裁錄トス一部毎ニ口座ヲ設クルモノトス

●動物證據品保管費支出ニ關スル件

（明治二十八年四月岐阜署長ヨリ照會ニ對スル警務課回答）

警事被告事件ニ關スル證據品動物ニシテ警察署保管中ニ屬スル費用支出ノ件御問合ノ趣了承右ハ警察上取扱ニ屬スル內ハ警察費ヨリ支辨スル義ト御了知有之度此段及回答候也

●歳入金雑部金ノ取扱方ニ關スル件

（明治三十八年六月七日　會第一二五七號通牒）

歳入金滞納處分ノ差押金ハ總テ一旦雜部金トシテ取扱ヲ要スル如ク解セラルル向モ有之候處右ハ其際相當科目ニ拂込ヲ爲シ得ルモノハ殊更雜部金ノ出納ヲ經由スルニ及ハサル義ニ有之候

追テ差押金ハ遲滞ナク金庫ニ拂込ミ候樣御注意相成度

●貸座敷及娼妓賦金規則

（大正五年三月二十五日　岐阜縣令第十一號）

沿革　大正七年三月縣令第一一號　八年三月第一八號、九年三月第二八號、一〇年三月第一九號、一五年七月第一八一號改正

第一條　貸座敷營業者及娼妓稼業ヲ爲ス者ニハ賦金ヲ賦課ス

第二條　賦金ハ左ノ賦課標準及課率ニ依リ毎月之ヲ賦課ス但シ賦課標準ノ合計坪數ニ一合未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

一　貸座敷

營業ニ使用スル客間（娼妓ノ部屋及廣間ノ類ヲ謂ヒ床ノ間及床脇ヲ含ム）及店坪一坪ニ付岐阜市一箇月金六拾六錢其ノ他ノ町村一箇月金四拾六錢

寄寓娼妓一人毎ニ一箇月金參拾錢

一　娼妓

岐阜市　一箇月金參圓貳拾錢

其ノ他ノ市町村　一箇月金貳圓七拾錢

前項ニ依リ計算シタル貸座敷賦金額岐阜市拾參圓未滿ナルトキハ拾圓ヲ其ノ他ノ市町村八圓五拾錢未滿ナルトキハ六圓

六拾錢ヲ賦課ス

第三條　賦金ハ毎月一日現在ニ依リ賦課ス

賦課期日後新ニ納付ノ義務ヲ生シタルモノハ其ノ日ヲ以テ期日トシ賦課ス

貸座敷ニシテ賦課期日後賦課標準ヲ增シタルトキハ其ノ增加額ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四條　貸座敷營業及娼妓稼業ノ開始月ノ十六日以後ナルトキハ第二條ニ依ル賦課額ハ之ヲ半減シ賦課ス

前條第三項ニ依ル場合亦同シ

貸座敷ニシテ賦課期日後月ノ十五日以前ニ賦課標準ヲ減シタルトキハ其ノ減額ニ對スル賦課額ハ之ヲ半減ス

第五條　賦金ハ毎月二十日ヲ以テ納期トス但シ納期前廢業スルトキ又ハ營業稼業ヲ禁止若ハ停止セラレタルトキハ卽納トス

第三條第二項ノ場合ニ於ケル納期ハ知事市町村長ニ於テ隨時之ヲ定ム

第三條第三項ニ依リ追徵スヘキ賦金ハ定期ニ賦課スヘキ賦金ニ合算徵收シ第四條第二項ニ依リ過納トナリタル賦金ハ翌後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ賦金ニ充ツルコトヲ得

第六條　賦金ハ知事市町村長ノ告知書ニ依リ納付スヘシ

第七條　廢業休業又ハ營業稼業ノ禁止若ハ停止月ノ十五日以前ナルトキハ既納賦金ノ半額ヲ還付ス但シ休業又ハ停止セラレタルモノニシテ十六日以後更ニ營業稼業ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　賦金納付義務者ハ總代人ヲ定メ納付スルコトヲ得此ノ場合ニアリテハ遞署ヲ以テ岐阜市ニアリテハ知事ニ其ノ他ノ市町村ニアリテハ所轄市町村長ニ屆出ヘシ

第九條　納入告知書督促狀及滞納處分ニ關スル書類ノ送達方法ニ付テハ縣稅ノ例ニ依ル

第十條　第八條ニ依リ總代人ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ總代人ニ發スル納入告知書ハ市町村ニ對シテ發スル縣稅ノ徵稅令書ノ式ニ準シ之ニ一人別仕譯書ヲ添付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ總代人ハ市町村長ヨリ縣稅ヲ納付スルノ例ニ依リ納付書ヲ製シ之ヲ添付シテ現金ヲ縣金庫ニ拂込ミ區時ニ其ノ拂込金ニ對スル一人別仕譯書ヲ製シ岐阜市ニアリテハ知事ニ其ノ他ノ市町村ハ所轄市町村長ニ差出スヘシ

第十一條　貸座敷營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ許可月日賦課標準トナルヘキ坪數圖面及寄寓娼妓數ヲ岐阜市ニアリテハ知事ニ其ノ他ノ市町村ニアリテハ所轄市町村長ニ届出ヘシ

前項ノ届出後異動ヲ生シタルトキハ其ノ時々届出ヘシ

第十二條　知事市町村長ハ賦金賦課ニ關シ必要ト認メタルトキハ官吏吏員ヲシテ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

營業者又ハ稼業者ハ前項檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　第十一條ニ依リ届出ヘキ事項ノ届出ヲ爲サス又ハ第十二條第二項ニ違背シタル者ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

附　則

本則ハ大正五年四月一日ヨリ施行ス

本則施行ノ際貸座敷營業ヲ爲ス者ハ大正五年四月一日現在ヲ同月三日迄ニ第十一條ニ依リ届出ヘシ

明治三十四年十月岐阜縣令第四十三號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●貸座敷及娼妓賦金規則施行手續

（大正五年三月二十五日　岐阜縣訓令甲第九號）

沿革　大正七年三月訓令甲第八號・一五年七月第七〇號改正

內務部警察部
（郡役所）警察署

第一條　市町村長ハ適宜ノ式ニ依リ貸座敷及娼妓賦金臺帳、同收入臺帳ヲ調製シ貸座敷及娼妓賦金臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　賦課標準トナルヘキ事項、納付義務者ノ住所氏名家號娼妓ノ稼業名

二　貸座敷及娼妓賦金規則第八條ニ依リ總代人ヲ定メ届出タルトキハ其ノ住所氏名

第二條　警察官署ニ於テ賦金ノ納付義務ヲ發生スヘキ者ノ營業稼業ニ關スル願届ヲ處理シタルトキハ其ノ住所氏名家號娼妓ノ稼業名竝處理ノ年月日及賦課標準トナルヘキ事項ヲ詳記シ即日岐阜市ニアリテハ內務部ニ其ノ他ノ市町村ニアリテハ所轄市役所又ハ町村役場ニ通報スヘシ

第三條　賦金賦課ニ關シ檢査ヲ行フ官吏吏員檢査ニ際シ必要アルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

附　則

本手續ハ大正五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月岐阜縣訓令第十三號ハ本手續施行ノ日ヨリ廢止ス

●法人貸座敷賦金賦課方ノ件

（大正三年五月五日　一第二三四八號）

本月二十二日稅第〇八五號ヲ以テ右件御問合ノ趣了承右ハ後段御見込ノ通存候條此段及回答候

追テ貸座敷賦金ニ付テモ本文同樣御取扱相成可然此段申添候

（大正三年四月二十二日　岐阜市問合）

問

茲ニ法人納稅濟ニ係ル甲家ニ營業ノ法人會社ニシテ稅金賦課期日後其期內ニ於テ乙家ニ移轉シ同營業ヲ爲ス場合縣稅法人稅ハ其家屋ヲ標準トシテ課稅スル規程ナルヲ以テ尙乙家ニ對シテモ法人稅ヲ賦課スヘキモノノ如クナルモ既ニ甲家ニ於テ

法人稅納付ノモノニ付移轉乙家ノ坪數甲家ヨリ增加ノ場合ニ於テ其增加ノ坪數ノミニ對シ法人稅賦課シ可然哉又貸座敷賦金ニ於テモ甲家ヨリ乙家ノ移轉ノトキハ同樣取扱可然哉何分ノ回示相成度此段及問合候也

●貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金賦課地方稅編入及警察機密費檢徵費支辨方

（明治二十一年八月七日閣令第十二號）

沿革　明二二年二月閣令第二八號改正

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ

警察機密費（高等警察ニ屬スルモノヲ除ク）ハ警察費中ノ一科目トシ檢徵費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方稅ヨリ支辨スヘシ

●娼妓病院ニ收容セラルル患者費等收支整理ノ件

（明治四十四年六月七日警第四四〇三號警察部長ヨリ各警察官署長ヘ通牒）

娼妓病院規則第一條末項ニヨリ娼妓病院ニ收容セラルル者ニ關スル費用ニシテ本人又ハ媒合者ニ於テ負擔スル資力ナシト認メ警察費ヨリ支辨スル所要費額ノ標準ハ藥價及治療用品ハ實費寢具ハ一夜金貳錢食費一食金四錢ニ有之候條事實發生ノ都度行政執行法同施行令取扱手續第十三條ニ依リ指揮ヲ受ケ支辨シ若シ本人又ハ媒合者等ヨリ償還ヲ受ケタルトキハ本年訓令甲第七號明治四十四年度岐阜縣歲入科目第十款雜收入第六項償還金第三目行政代執行費償還金ノ目ニ收入整理相成度爲念兼皆通牒候也

●委任狀等提出方ノ件

（大正三年三月二十五日五第五〇三號內務部通牒）

俸給其ノ他諸給與金等ノ請求及領收方ノ委任狀或ハ同謄本ハ從來委任狀作成ノ當該月ノ支出證書ニ綴込ミ提出相成居候處大正三年度四月分ヨリ別冊ニ調製提出相成候樣致度此段及通牒候

追テ一時限ノ委任狀ノ如キハ從來ノ通證書中ニ合冊相成差支無之候ニ付申添候

●府縣藩印

（明治二年八月十三日公達）

府縣藩印　二寸四分

右之通リ相定ム

●官印寸法

（明治三十一年八月十二日閣令第五號）

明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用ヰル印章ハ勅任官ハ方九分曲尺奏任官ハ方七分曲尺判任官ハ方六分曲尺トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

ニシ3L38
(奥付あり)

38

昭和二年六月二十九日印刷
昭和二年六月三十日發行

編纂者　岐阜縣警察部

發行兼印刷者　岐阜縣本巢郡北方町　株式會社啓文社　代表者　村田憲治

印刷所　大阪市南區東賑町　株式會社啓文社工場

非賣品

不許複製

發行所
(本社)岐阜縣本巢郡北方町　電話二六、振替東京二一五一
(工場)大阪市南區東賑町一八　電話東四〇七番
株式會社　啓文社

(ニシ3L38)